

平成29年度 全国学力・学習状況調査
— 鈴鹿市の教科に関する調査結果概要 —



平成29年10月

鈴鹿市教育委員会事務局教育指導課

目 次

1	調査の概要	1
2	調査結果の概要	2
3	各教科の調査結果	16
	小学校 国語	16
	国語に関する質問紙調査の結果	18
	小学校 算数	20
	算数に関する質問紙調査の結果	22
	中学校 国語	24
	国語に関する質問紙調査の結果	26
	中学校 数学	28
	数学に関する質問紙調査の結果	30

平均正答率の表記について

平成29年3月29日付けで、文部科学省をとおして、全国的な学力調査に関する専門家会議から通知された「全国的な学力調査の今後の改善方策について（まとめ）」に以下の様な記述がある。

- さらに、平均正答率については、学力面において、細かい桁における微小な差異は、実質的な違いを示すものではないため、国としては、小数点以下を四捨五入した整数値で結果を公表することとする。

このことにより、平成29年度の鈴鹿市及び三重県における平均正答率の数値については、小数点以下を四捨五入した整数値で表記している。

質問紙調査の数値の表記について

各教科に関する質問紙調査の結果については、肯定的回答の割合が70%未満と、70%以上で合っても全国平均より5ポイント以上下回る数値について、課題とみなし、数値を□で囲って表記している。

1 調査の概要

(1) 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる
- 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する

(2) 調査の対象

小学校第6学年

中学校第3学年

(3) 調査内容

- ◇ 教科に関する調査（国語、算数・数学）

【国語、算数・数学】

主として「知識」に関する問題 (A問題)	主として「活用」に関する問題 (B問題)
身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できようになっていることが望ましい知識・技能など	知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力など
<調査時間> 各教科 小学校 20分 中学校 45分	<調査時間> 各教科 小学校 40分 中学校 45分

- ◇ 質問紙調査

児童生徒に対する質問紙調査	学校に対する質問紙調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査 <調査時間> 20分程度	学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査

(4) 調査方式 悉皆調査

(5) 調査日時 平成29年4月18日(火)

(6) 鈴鹿市における調査を実施した学校・児童生徒数 (後日受検は含まない)

	実施校数	実施人数			
		国語A	国語B	算数(数学)A	算数(数学)B
小学校	30校	1,737人	1,738人	1,741人	1,739人
中学校	10校	1,867人	1,867人	1,872人	1,872人

2 調査結果の概要

(1) 鈴鹿市・三重県（公立）・全国（公立）の平均正答率

- 小学校・中学校ともに全ての教科において、全国平均を下回っている。（表1）（表2）

表1 平成29年度 平均正答率（小6） (%)

小6	国語 A	国語 B	算数 A	算数 B
鈴鹿市	73	57	77	44
三重県 (公立)	74	57	77	45
全国 (公立)	74.8	57.5	78.6	45.9

表2 平成29年度 平均正答率（中3） (%)

中3	国語 A	国語 B	数学 A	数学 B
鈴鹿市	76	71	62	45
三重県 (公立)	77	71	65	47
全国 (公立)	77.4	72.2	64.6	48.1

(2) 平均正答率 経年比較

- H19 年度から H29 年度までの平均正答率の変動は、国や県の動きとほぼ似た動きとなっている。(図 1～図 8)
- どの教科も国の平均正答率に達することはできていない。しかし、国の平均正答率と鈴鹿市の平均正答率の差をみると、8 教科中 5 教科において全国平均との差が縮まった。特に、小学校国語 A と中学校国語 B については、平成 28 年度に比べて 2.4 ポイント縮まった。(表 3) (図 1, 6, 9, 11)
- 小学校算数 B における国の平均正答率との差について、H28 年度は 0.8 ポイント差だったが、H29 年度は 1.9 ポイント差となった。(表 3) (図 9)
- 小学校については、9 年間で全体的に全国平均との差が縮まりつつある。(表 3) (図 9)
- 中学校については、9 年間で全体的に全国平均との差があまり縮まっていない。(表 3) (図 10)
- 中学校国語 AB については、これまで実施された調査の中で、国の平均正答率との差が最も縮まった。(表 3) (図 10)

平均正答率全国との経年変化 (小 6 国語 A)



図 1 平均正答率 国・県との経年比較 (小 6 国語 A)

平均正答率全国との経年変化 (小 6 国語 B)

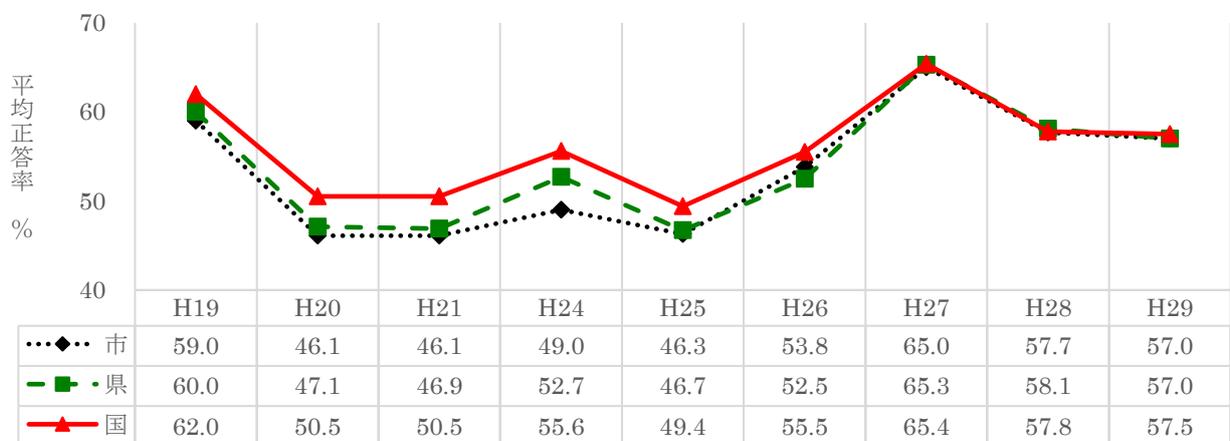


図 2 平均正答率 国・県との経年比較 (小 6 国語 B)

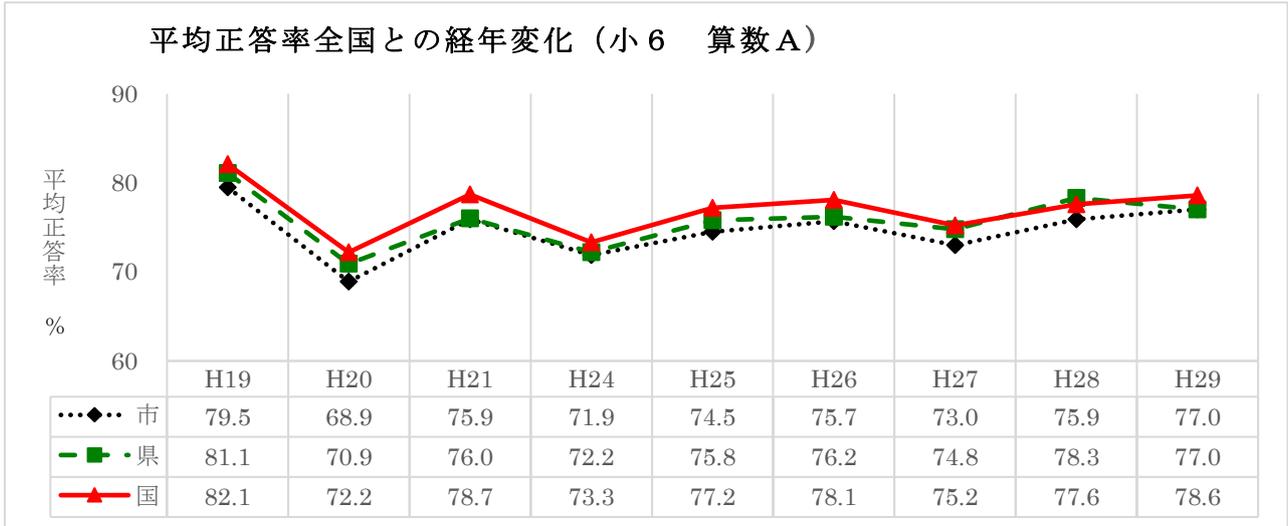


図3 平均正答率 国・県との経年比較（小6 算数A）

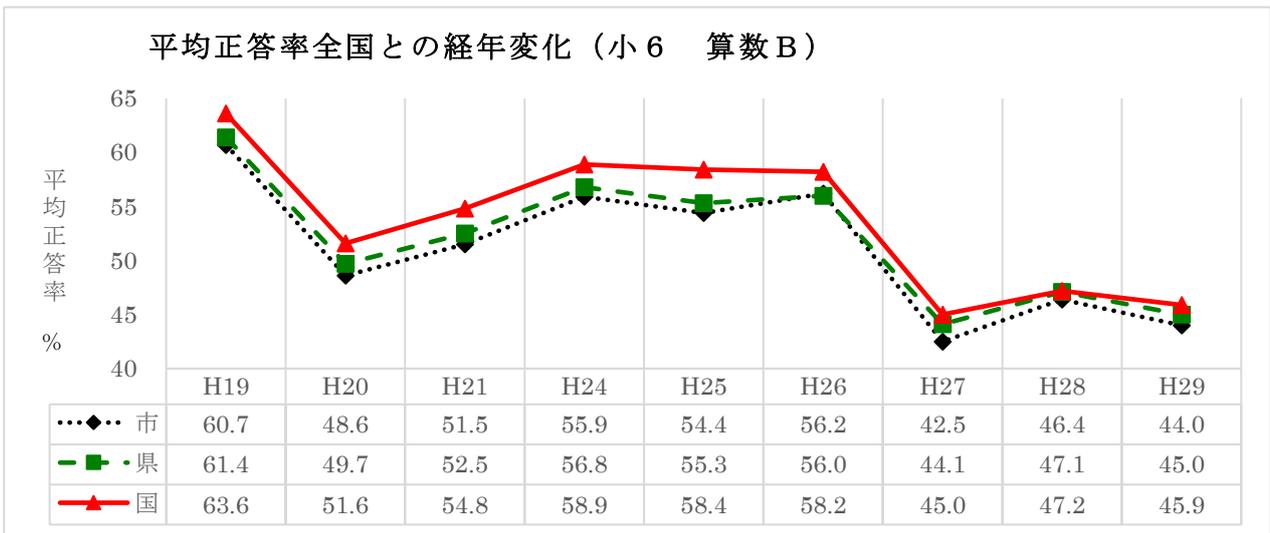


図4 平均正答率 国・県との経年比較（小6 算数B）

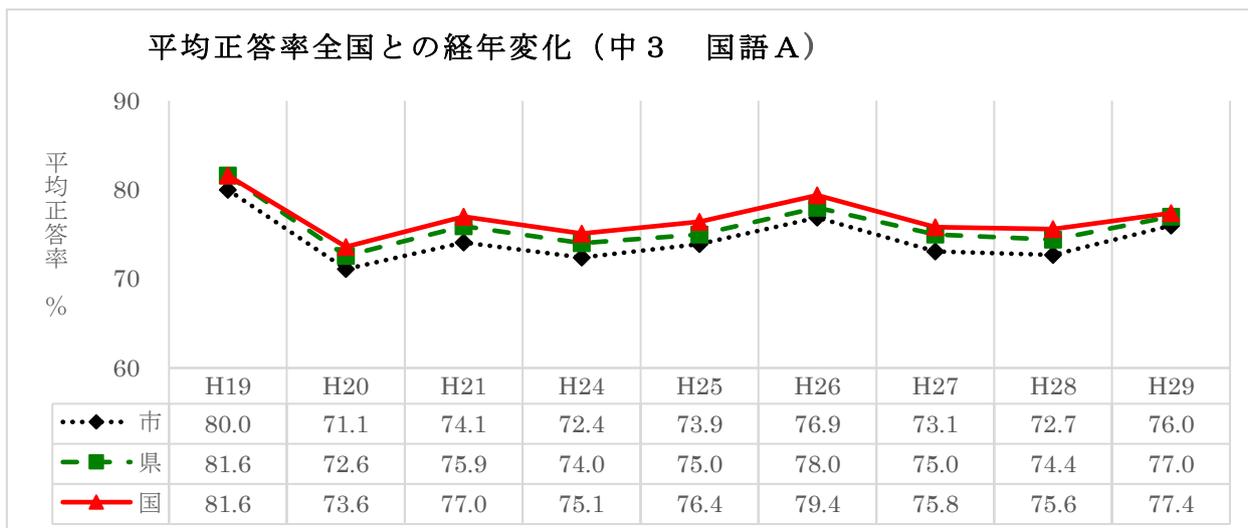


図5 平均正答率 国・県との経年比較（中3 国語A）

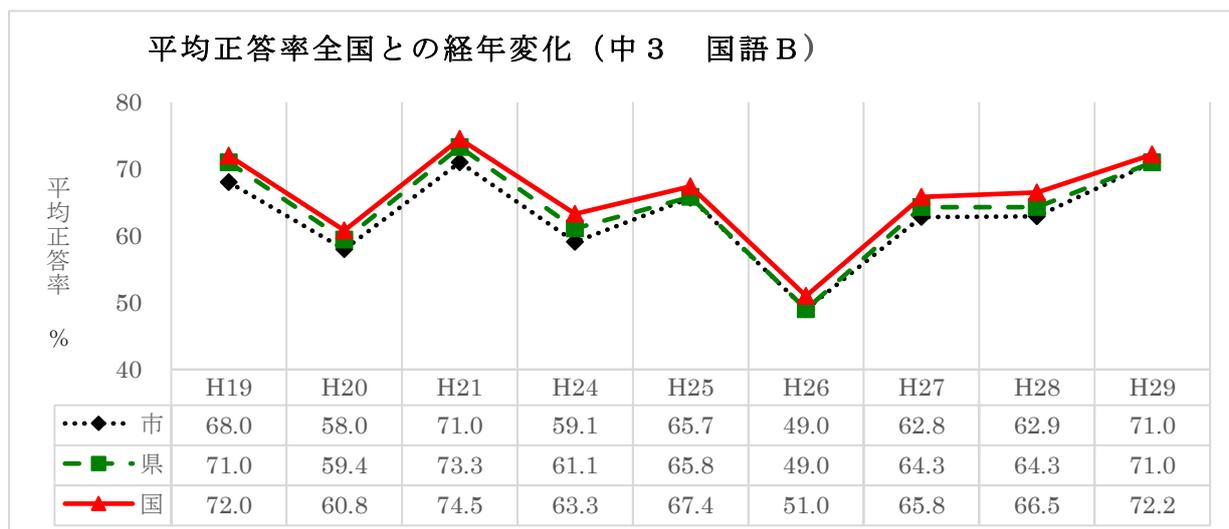


図6 平均正答率 国・県との経年比較（中3 国語B）

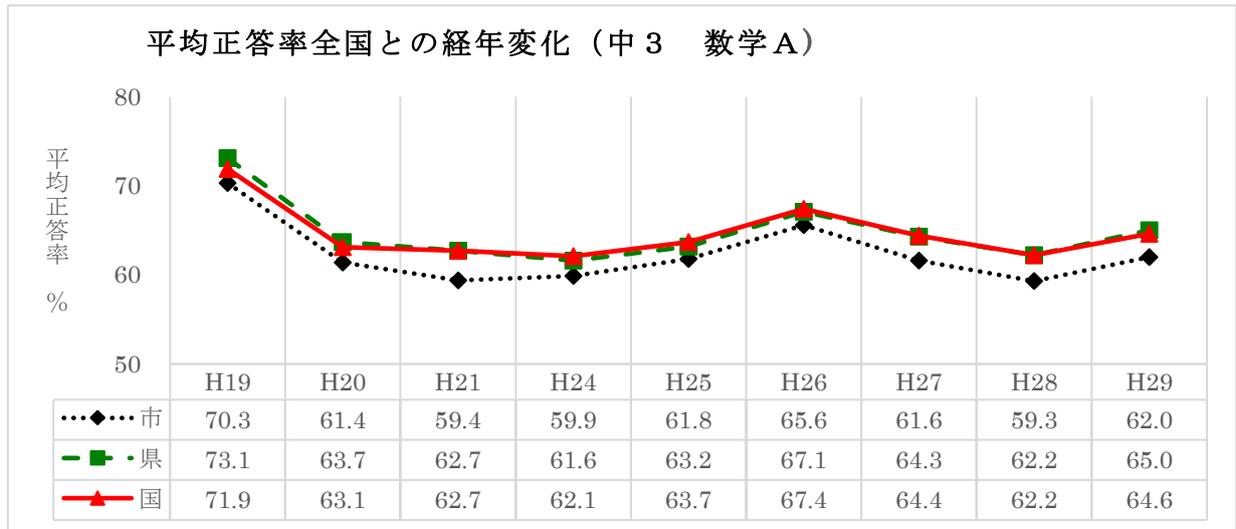


図7 平均正答率 国・県との経年比較（中3 数学A）

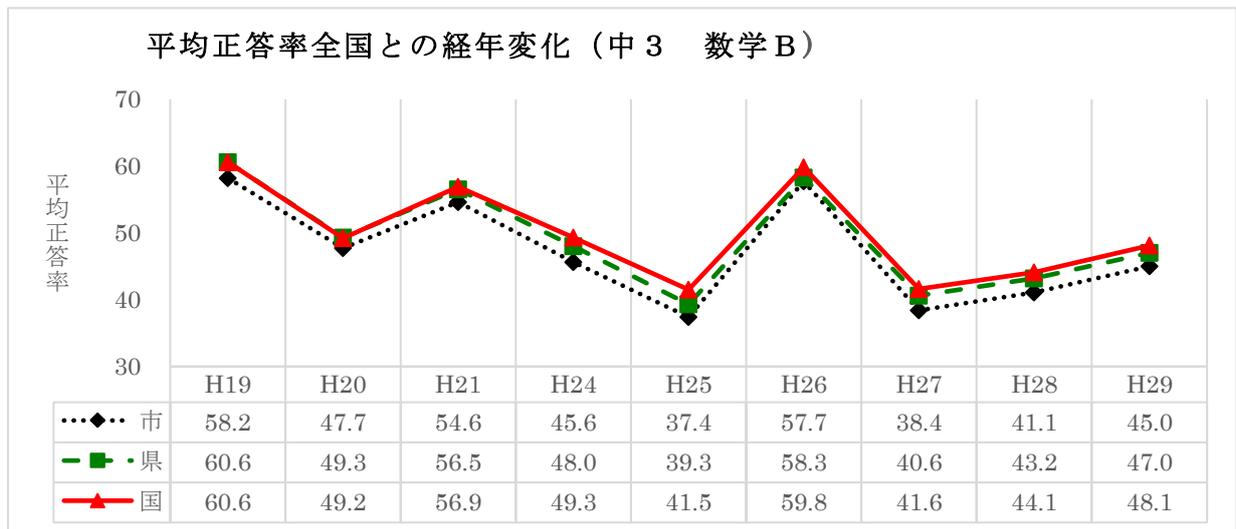


図8 平均正答率 国・県との経年比較（中3 数学B）

表3 平均正答率の全国との差の変化 (%)

		平成19年度			平成20年度			平成21年度			平成24年度			平成25年度		
		鈴鹿市	全国	差												
小国	A	79.4	81.7	-2.3	60.9	65.4	-4.5	67.7	69.9	-2.2	78.0	81.6	-3.6	58.5	62.7	-4.2
	B	59.0	62.0	-3.0	46.1	50.5	-4.4	46.1	50.5	-4.4	49.0	55.6	-6.6	46.3	49.4	-3.1
小算	A	79.5	82.1	-2.6	68.9	72.2	-3.3	75.9	78.7	-2.8	71.9	73.3	-1.4	74.5	77.2	-2.7
	B	60.7	63.6	-2.9	48.6	51.6	-3.0	51.5	54.8	-3.3	55.9	58.9	-3.0	54.4	58.4	-4.0
中国	A	80.0	81.6	-1.6	71.1	73.6	-2.5	74.1	77.0	-2.9	72.4	75.1	-2.7	73.9	76.4	-2.5
	B	68.0	72.0	-4.0	58.0	60.8	-2.8	71.0	74.5	-3.5	59.1	63.3	-4.2	65.7	67.4	-1.7
中数	A	70.3	71.9	-1.6	61.4	63.1	-1.7	59.4	62.7	-3.3	59.9	62.1	-2.2	61.8	63.7	-1.9
	B	58.2	60.6	-2.4	47.7	49.2	-1.5	54.6	56.9	-2.3	45.6	49.3	-3.7	37.4	41.5	-4.1

		平成26年度			平成27年度			平成28年度			平成29年度		
		鈴鹿市	全国	差									
小国	A	69.6	72.9	-3.3	67.1	70.0	-2.9	68.7	72.9	-4.2	73.0	74.8	-1.8
	B	53.8	55.5	-1.7	65.0	65.4	-0.4	57.7	57.8	-0.1	57.0	57.5	-0.5
小算	A	75.7	78.1	-2.4	73.0	75.2	-2.2	75.9	77.6	-1.7	77.0	78.6	-1.6
	B	56.2	58.2	-2.0	42.5	45.0	-2.5	46.4	47.2	-0.8	44.0	45.9	-1.9
中国	A	76.9	79.4	-2.5	73.1	75.8	-2.7	72.7	75.6	-2.9	76.0	77.4	-1.4
	B	49.0	51.0	-2.0	62.8	65.8	-3.0	62.9	66.5	-3.6	71.0	72.2	-1.2
中数	A	65.6	67.4	-1.8	61.6	64.4	-2.8	59.3	62.2	-2.9	62.0	64.6	-2.6
	B	57.7	59.8	-2.1	38.4	41.6	-3.2	41.1	44.1	-3.0	45.0	48.1	-3.1

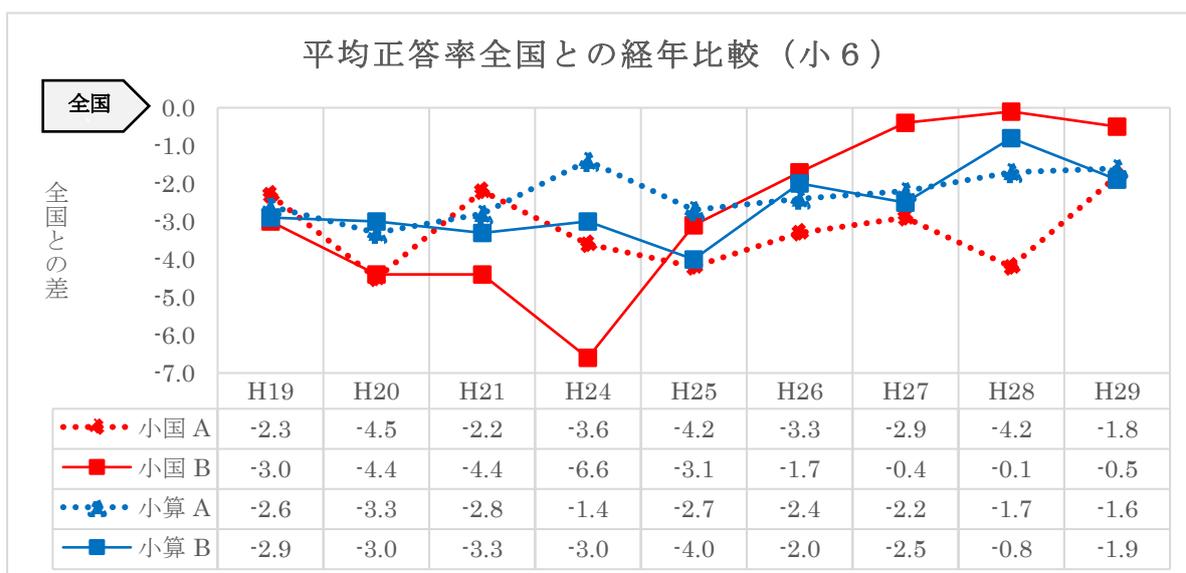


図9 平均正答率の全国との差の変化 (小学校)

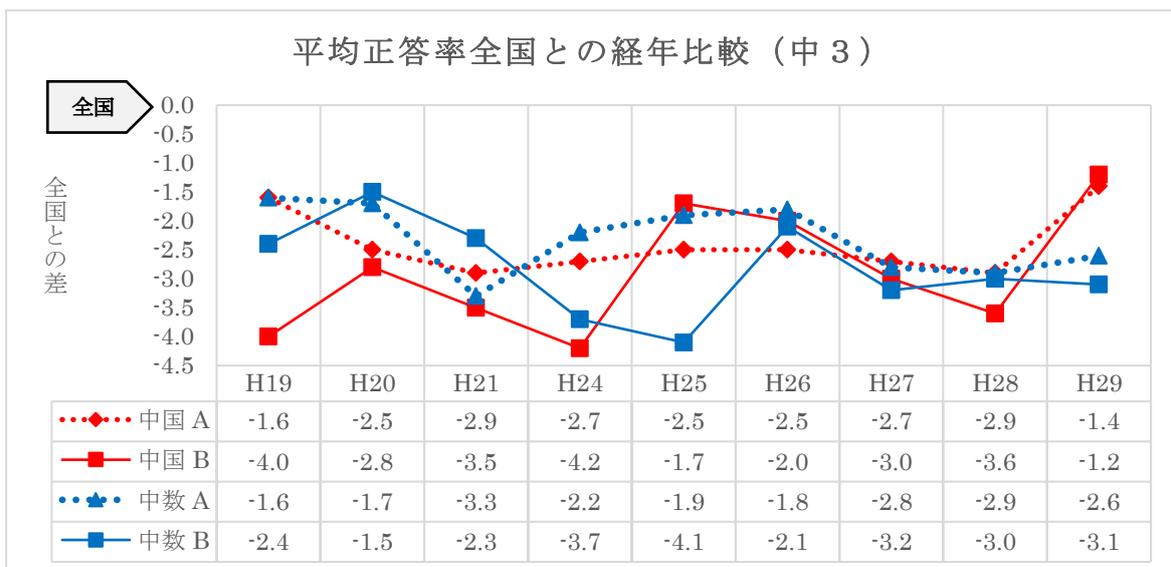


図 10 平均正答率の全国との差の変化（中学校）

(3) 鈴鹿市と全国（公立）の B 問題記述式問題における平均無解答率

- 国の平均無解答率と比較すると、小学校国語では、H28 年度と比べて変化がなく、小学校算数では、H28 年度に比べて、0.8 ポイント広がっている（表 4）（図 11）
- 中学校の国語について、H26 年度をピークに差が広がり続けていたが、H29 年度は差を縮めることができた。（表 4）（図 12）
- 中学校の数学について、H28 年度は、全国平均との差を 0.1 ポイントまで縮めたが、H29 年度は 0.8 ポイントに広がった。（表 4）（図 12）
- 小学校では、平成 24 年度を境に、全国との差が縮まっている。（図 11）
- 中学校では、全国との差が縮まる年と広がる年が繰り返されているが、H29 年度は大きな開きはない。（図 12）

表 4 記述式問題における平均無解答率 全国との経年比較（％）

	平成19年度			平成20年度			平成21年度			平成24年度 ※小学校9校 中学校7校			平成25年度		
	鈴鹿市	全国	差	鈴鹿市	全国	差	鈴鹿市	全国	差	鈴鹿市	全国	差	鈴鹿市	全国	差
小国B 記述式問題	13.7	10.4	-3.3	21.8	16.4	-5.4	18.7	13.6	-5.1	19.6	12.8	-6.8	21.0	15.1	-5.9
小算B 記述式問題	13.6	10.1	-3.5	11.4	8.6	-2.8	12.6	9.3	-3.3	10.3	7.4	-2.9	14.7	10.9	-3.8
中国B 記述式問題	12.7	10.7	-2.0	24.5	20.2	-4.3	8.3	6.4	-1.9	14.5	11.9	-2.6	7.1	6.5	-0.6
中数B 記述式問題	25.6	23.0	-2.6	29.6	27.0	-2.6	27.1	22.8	-4.3	21.3	19.0	-2.3	33.0	29.5	-3.5

	平成26年度			平成27年度			平成28年度			平成29年度		
	鈴鹿市	全国	差									
小国B 記述式問題	13.6	12.8	-0.8	10.1	8.7	-1.4	9.2	8.4	-0.8	9.1	8.3	-0.8
小算B 記述式問題	8.1	7.1	-1.0	18.6	16.5	-2.1	15.0	14.3	-0.7	11.0	9.5	-1.5
中国B 記述式問題	9.1	9.3	0.2	7.7	5.9	-1.8	14.7	12.2	-2.5	9.8	9.2	-0.6
中数B 記述式問題	16.5	16.1	-0.4	26.9	23.2	-3.7	19.5	19.4	-0.1	26.0	25.2	-0.8

※平成 24 年度の鈴鹿市の無解答率については、抽出校の小学校 9 校、中学校 7 校の平均

※無解答率については、数値が低いほどよい

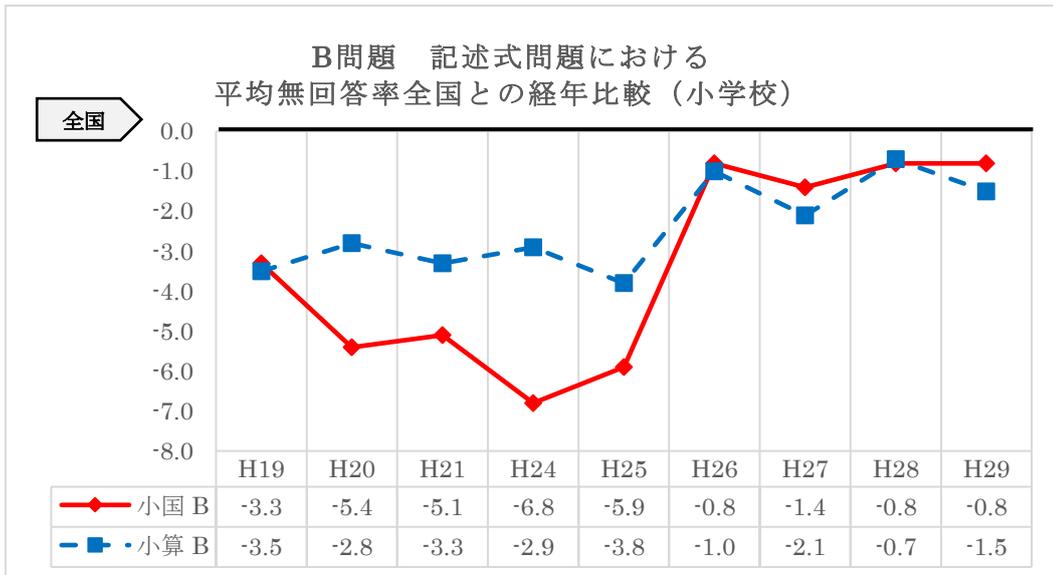


図 11 記述式問題平均無解答率の全国との経年比較（小学校）

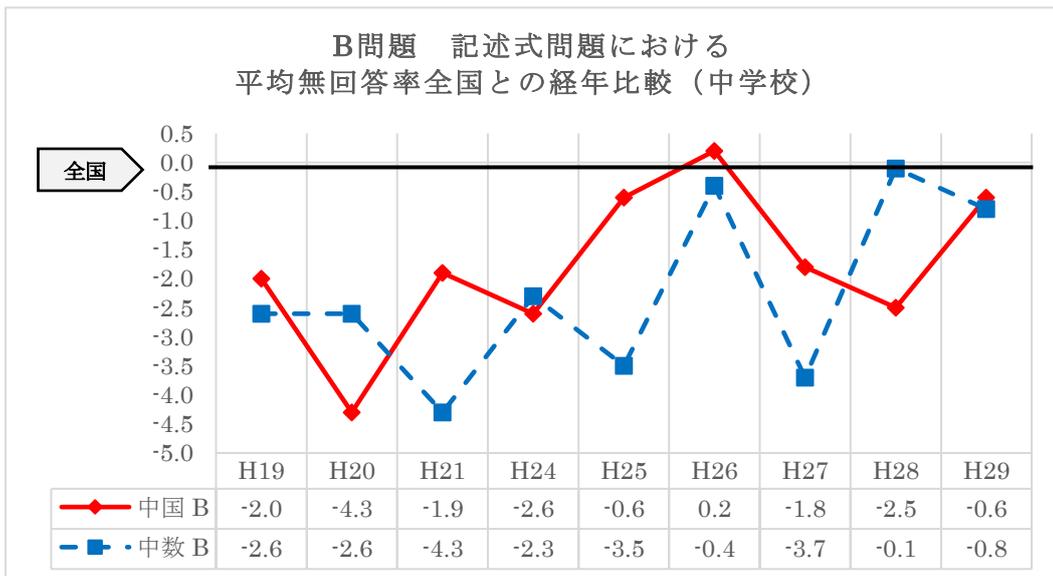


図 12 記述式問題平均無解答率の全国との経年比較（中学校）

(4) 平均正答率が全国平均・県平均を上回る学校数

- 小学校中学校ともに、算数・数学Aについて平成28年度に比べて全国平均及び県平均を上回る学校数が増えた。(表5, 6)
- 小学校中学校ともに、算数・数学Bについて、平成28年度に比べて全国平均及び県平均を上回る学校数が減少した。(表5, 6)

表5 平均正答率が全国平均・県平均を上回る学校数の経年変化(小学校) (校)

小学校	国語A									国語B									算数A									算数B								
	H19	H20	H21	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H19	H20	H21	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H19	H20	H21	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H19	H20	H21	H24	H25	H26	H27	H28	H29
全国平均を上回る学校数	7	7	11	4	7	5	7	4	6	12	6	6	1	8	9	14	16	13	8	9	10	14	9	8	8	10	14	7	8	11	7	8	9	8	14	9
県平均を上回る学校数	14	10	14	11	11	16	10	7	6	14	11	15	5	13	18	14	15	13	10	12	18	16	12	13	8	9	18	16	14	14	14	15	13	12	14	9

表6 平均正答率が全国平均・県平均を上回る学校数の経年変化(中学校) (校)

中学校	国語A									国語B									数学A									数学B								
	H19	H20	H21	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H19	H20	H21	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H19	H20	H21	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H19	H20	H21	H24	H25	H26	H27	H28	H29
全国平均を上回る学校数	4	2	2	3	3	1	2	1	2	1	3	3	2	3	3	2	2	4	3	6	2	3	3	3	3	2	4	2	6	4	1	2	3	3	3	1
県平均を上回る学校数	4	3	4	3	4	4	2	3	2	3	4	4	2	7	5	4	3	4	2	5	2	4	3	4	3	2	3	2	6	4	3	3	5	5	3	2

(5) 正答数分布

＜小学校6年＞

- 国語A, 国語Bについて, 昨年度までに比べて全国の山の形に近付いた。(図 13, 14)
- 算数Aについて, 正答数の最高値は全国平均よりも低いものの, 山の形は全国に合致している。(図 15)

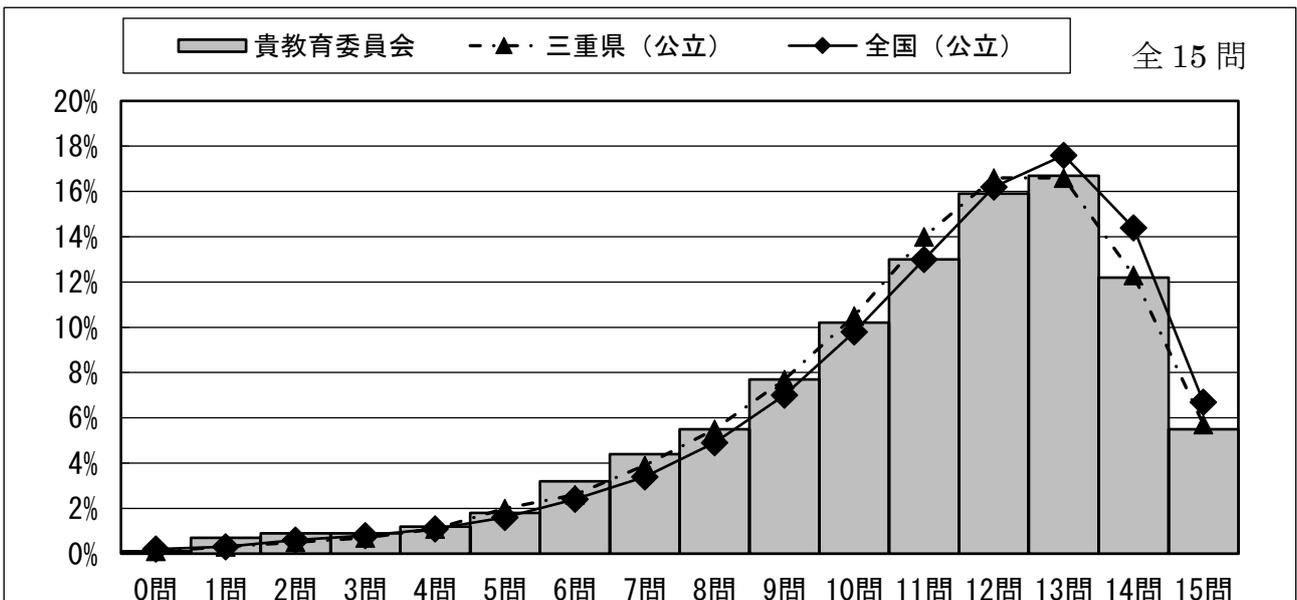


図 13 H29 年度 小学校国語 A 正答数分布

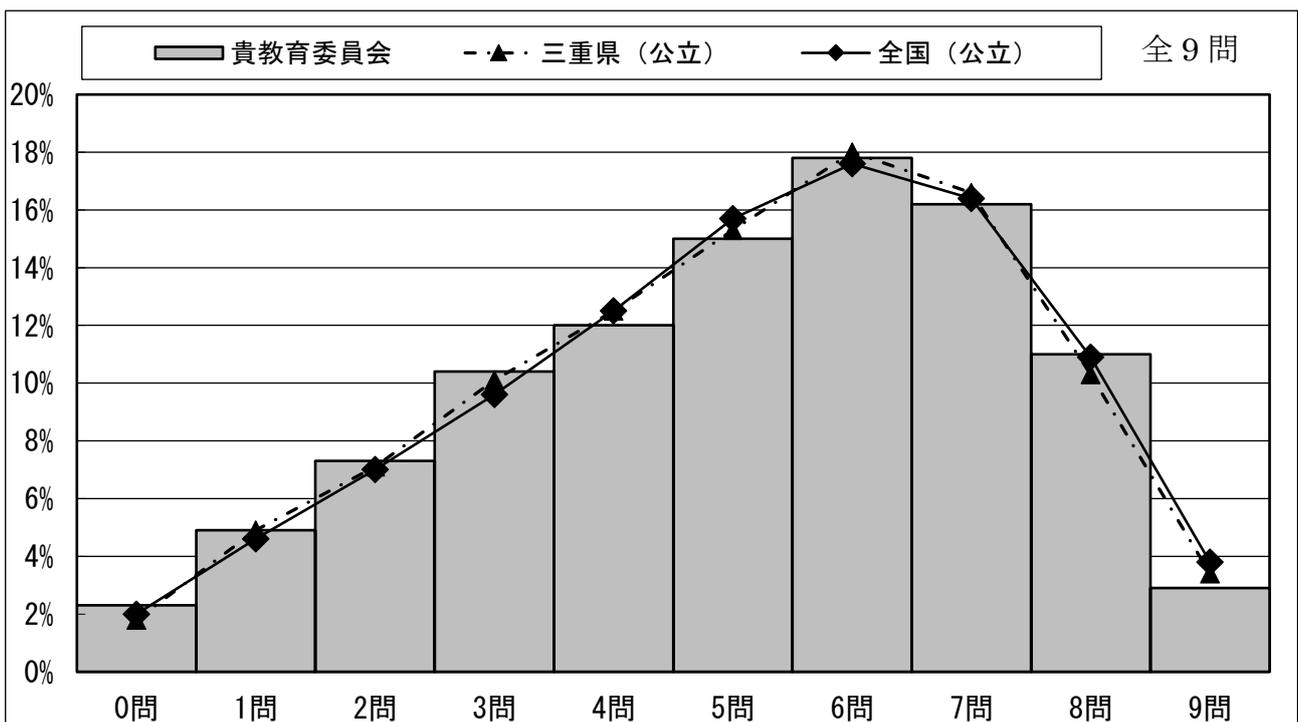


図 14 H29 年度 小学校国語B 正答数分布

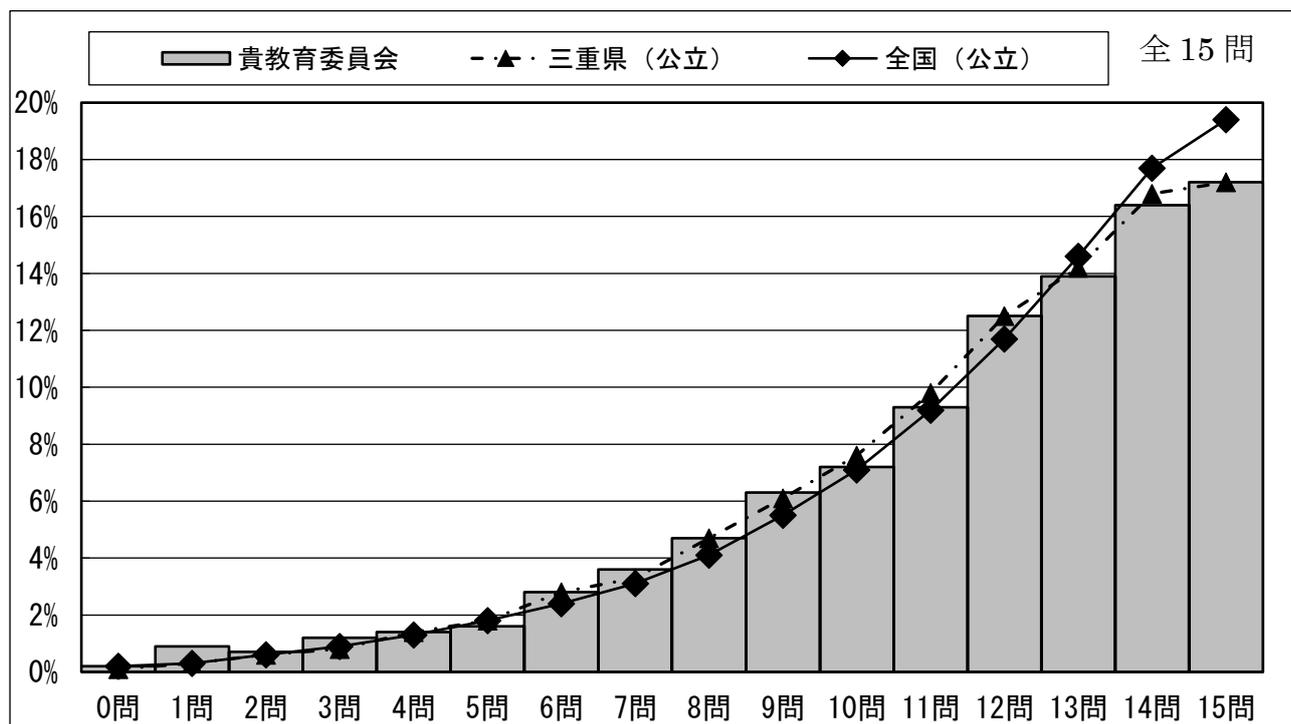


図 15 H29 年度 小学校算数A 正答数分布

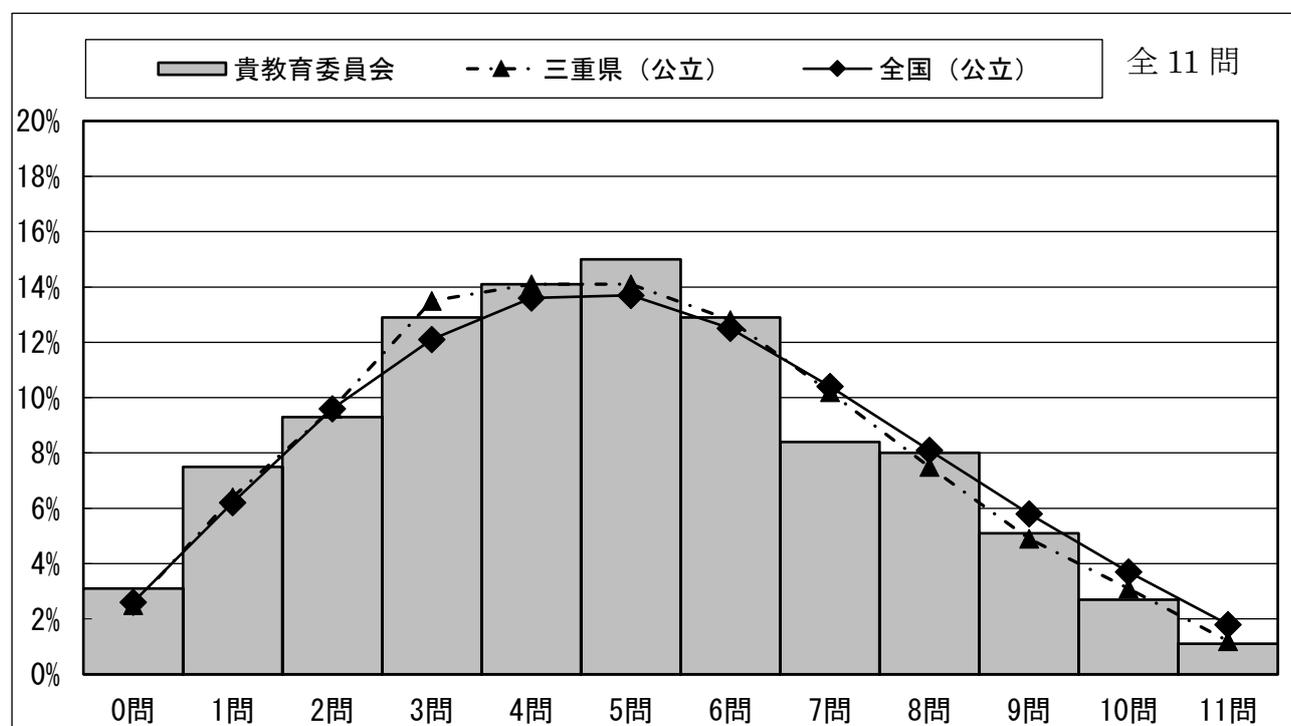


図 16 H29 年度 小学校算数B 正答数分布

<中学校3年>

- 数学Aを除いては、中央値※の値が全国と一致している。昨年度までと比べて、市全体の分布が国の分布に近づいているといえる。
- 数学Aについては、8問、11問、16問、18問、19問、21問、22問の7箇所の頂点ができている。全国平均に比べて、中間層の正答数の分布が多いことになり、昨年度に比べて改善傾向にあるものの、学習の定着に課題がある生徒の割合が多いといえる。(図19)

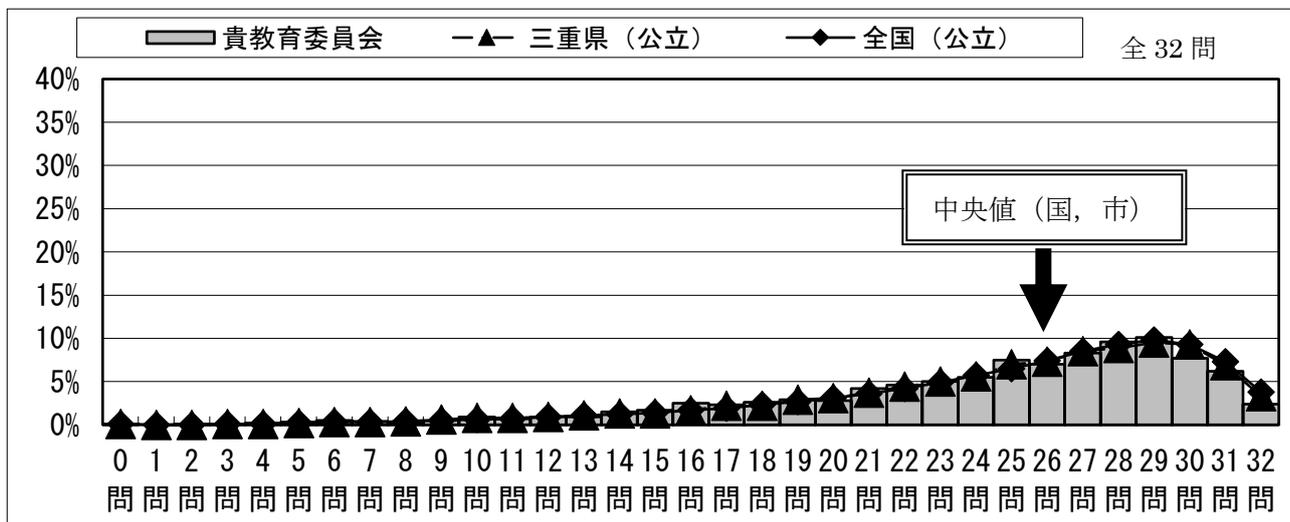


図 17 H29 年度 中学校国語A正答数分布

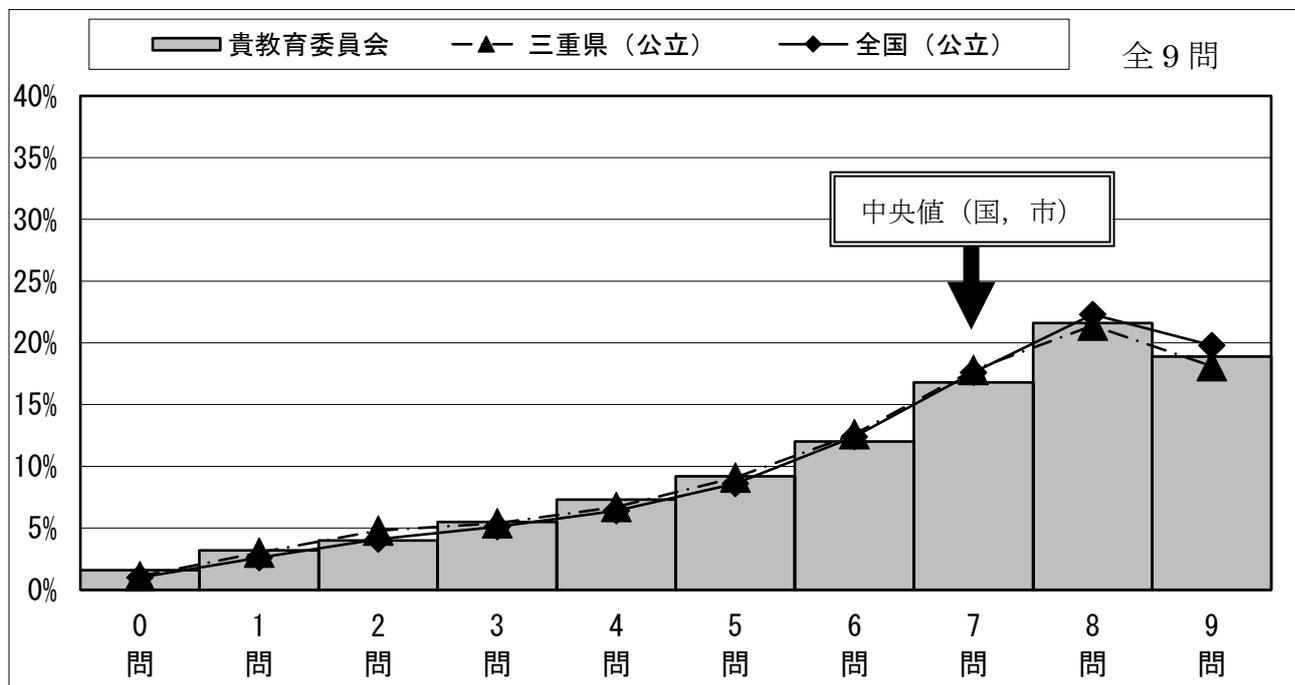


図 18 H29 年度 中学校国語B正答数分布

※ 中央値

集団のデータを大きさの順に並べた時に真ん中に位置する値。

平均値とともに集団における代表値として捉えられる。

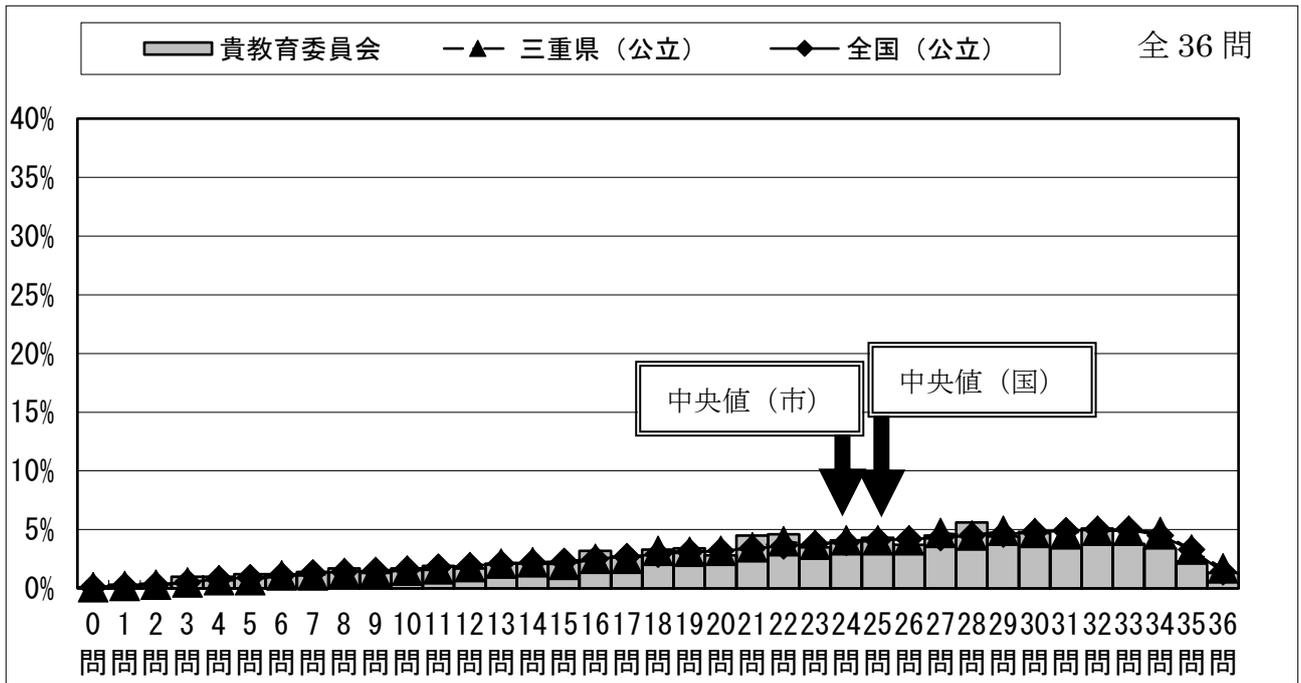


図 19 H29 年度 中学校数学A正答数分布

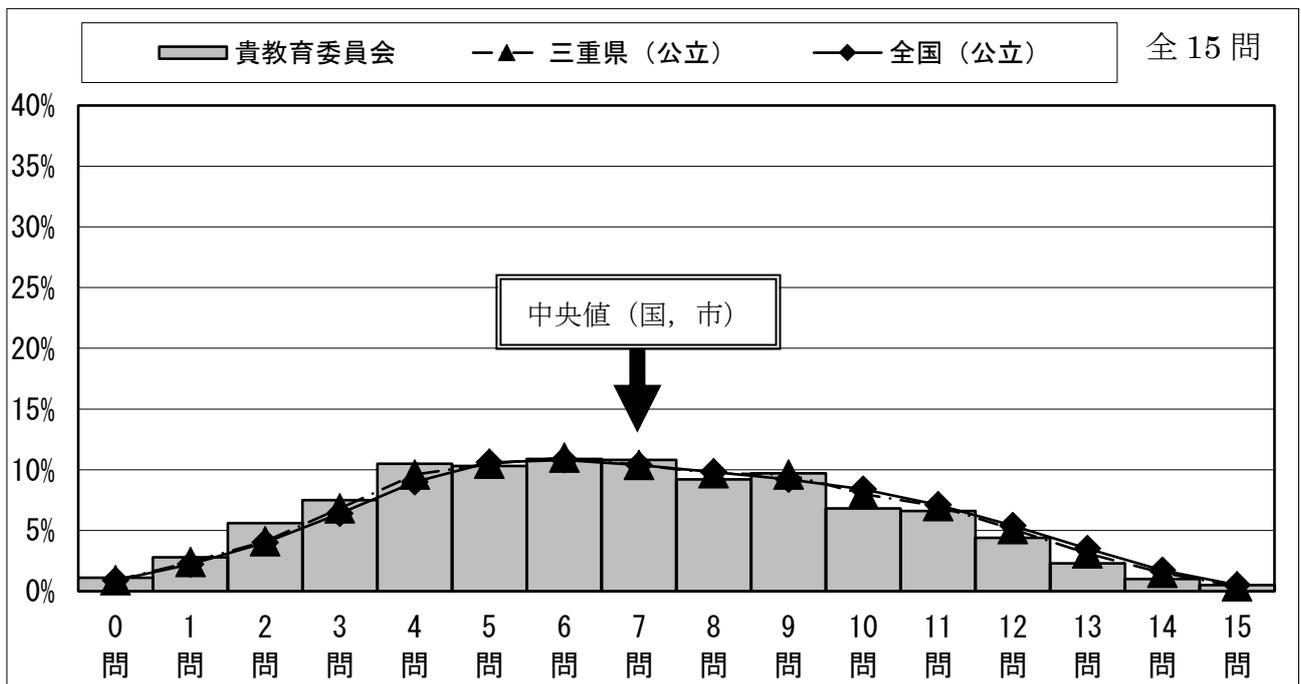


図 20 H29 年度 中学校数学B正答数分布

3 各教科の調査結果

小学校 国語

<A問題> (表7) (図21) ※全国平均との比較について

- 「書くこと」について、H28年度に比べて1.1ポイント、「読むこと」について0.7ポイント縮めた。
- 「話すこと・聞くこと」については、H26年度からH29年度にかけて、年々差が開き続けている。
- 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」については、H28年度に比べて差が3.1ポイント縮まり、この4年間では一番全国平均に近づいた。

表7 小学校国語A 分類・区分別集計結果

小学校国語A		平成26年度			平成27年度			平成28年度			平成29年度		
		鈴鹿市	全国	差									
	全体	69.6	72.9	-3.3	67.1	70.0	-2.9	68.7	72.9	-4.2	73.0	74.8	-1.8
学習指導要領 の領域等	話すこと・聞くこと	72.0	72.4	-0.4	52.2	53.0	-0.8	76.0	79.2	-3.2	63.8	69.2	-5.4
	書くこと	69.5	72.2	-2.7	85.3	86.0	-0.7	70.8	72.8	-2.0	59.7	60.6	-0.9
	読むこと	66.0	68.5	-2.5	50.3	55.2	-4.9	77.5	78.5	-1.0	69.9	70.2	-0.3
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	70.0	73.7	-3.7	74.4	77.2	-2.8	65.8	71.1	-5.3	75.8	78.0	-2.2
問題形式	選択式	62.7	66.6	-3.9	63.9	66.4	-2.5	75.4	77.2	-1.8	69.8	71.7	-1.9
	短答式	75.6	78.5	-2.9	70.2	73.7	-3.5	64.2	70.0	-5.8	76.8	79.4	-2.6
	記述式												

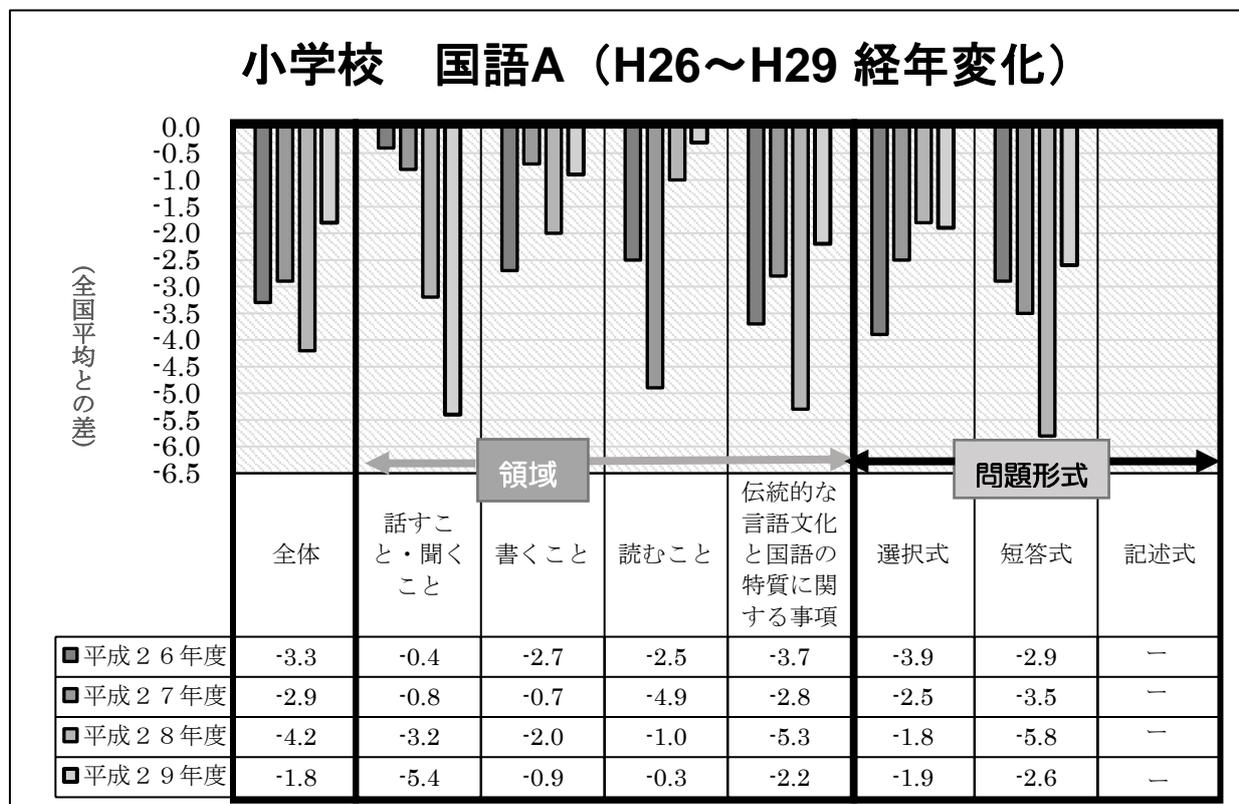


図21 平成26年度から平成29年度にかけての領域別、問題形式別正答率推移 (小学校国語A)

＜B問題＞（表8）（図22）※全国平均との比較について

- 「書くこと」について、H28年度は全国平均を上回っていたが、H29年度は1.2ポイント下回った。
- 「話すこと・聞くこと」について、H28年度よりも0.8ポイント広がった。
- 「短答式」について、H27年度は全国平均を0.9ポイント下回っていたが、H29年度は0.4ポイント上回ることができた。
- 「記述式」について、H28年度は全国平均を1.1ポイント上回っていたが、H29年度は1.3ポイント下回り、H28年度より2.4ポイント下がった。

表8 小学校国語B 分類・区分別集計結果

小学校国語B		平成26年度			平成27年度			平成28年度			平成29年度		
		鈴鹿市	全国	差									
	全体	53.8	55.5	-1.7	65.0	65.4	-0.4	57.7	57.8	-0.1	57.0	57.5	-0.5
学習指導要領 の領域等	話すこと・聞くこと	48.6	51.2	-2.6				51.0	51.1	-0.1	64.0	64.9	-0.9
	書くこと	33.2	34.4	-1.2	60.5	61.1	-0.6	53.8	53.4	0.4	52.2	53.4	-1.2
	読むこと	56.1	57.3	-1.2	68.0	68.1	-0.1	68.9	69.3	-0.4	49.1	49.2	-0.1
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	69.5	69.8	-0.3									
問題形式	選択式	60.6	62.1	-1.5	68.3	68.6	-0.3	58.9	59.9	-1.0	63.7	64.6	-0.9
	短答式	65.5	67.7	-2.2	79.9	80.8	-0.9				69.6	69.2	0.4
	記述式	33.2	34.4	-1.2	55.1	55.4	-0.3	55.8	54.7	1.1	40.4	41.7	-1.3

小学校 国語B（H26～H29 経年変化）

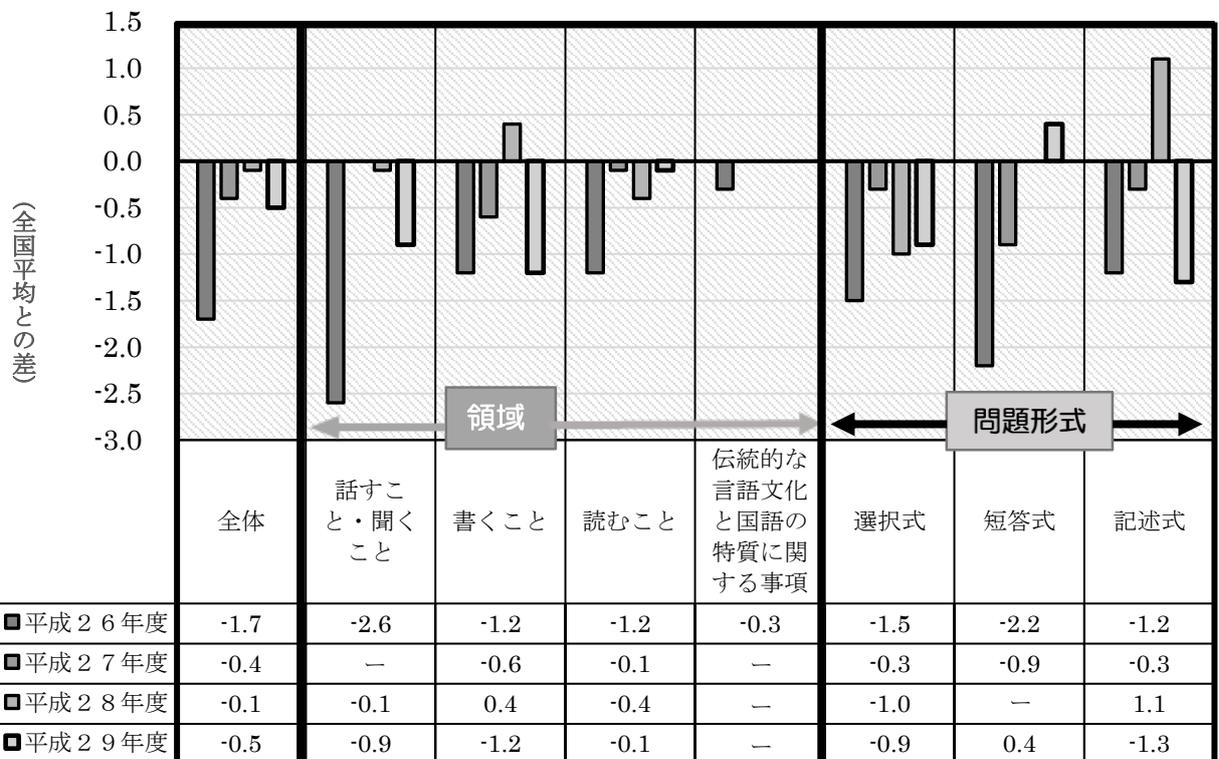


図22 平成26年度から平成29年度にかけての領域別、問題形式別正答率推移（小学校国語B）

小学校国語に関する質問紙調査の結果

※肯定的回答の割合が70%未満か、70%以上であっても全国平均より5ポイント以上下回るものについて課題が大きいとみなす。

質問紙調査結果からみえる課題

<児童質問紙調査>

- 「国語の勉強は好き」と回答する児童の割合（表9）
- 目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりすること（表10）
- 意見を発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫すること（表10）
- 「解答時間は十分」と回答する児童の割合（国語B）（表11）

<学校質問紙調査>

- 「前年度に国語の授業において、コンピュータ等の情報通信技術を活用した授業を行った」と回答する学校の割合（表12）
- 「様々な文章を読む習慣をつける授業を行った」と回答する学校の割合（表12）
- 「前年度までに、発展的な学習の指導を行いましたか」と回答する学校の割合（表12）

児童質問紙

表9 児童の「国語の学習に対する関心」に関する質問における肯定的回答の割合 (%)

H29 質問 番号	質 問	H27 鈴鹿市	H28 鈴鹿市	H29 鈴鹿市	H29 全国 (公立)	H29 全国 平均 との差
69	国語の勉強は好きですか	59.6	56.7	58.4	60.5	△
70	国語の勉強は大切だと思いますか	92.2	90.3	89.1	91.2	△
71	国語の授業の内容はよく分かりますか	80.9	78.9	82.3	82.2	○
72	読書は好きですか	70.8	73.0	73.2	74.3	△
73	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	88.8	88.0	88.0	87.9	○

※全国平均との差 ▲<-5≤△<0≤○<+5≤◎

表10 児童の「国語の学習に対する意欲・態度」に関する質問における肯定的回答の割合 (%)

H29 質問 番号	質 問	H27 鈴鹿市	H28 鈴鹿市	H29 鈴鹿市	H29 全国 (公立)	H29 全国 平均 との差
74	国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか	60.0	61.9	65.7	68.0	△
75	国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫していますか	58.3	59.8	61.3	63.4	△
76	国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いていますか	71.6	71.8	74.8	74.8	○

※全国平均との差 ▲<-5≤△<0≤○<+5≤◎

表 11 児童の「調査問題（国語）の解答状況」に関する質問における肯定的回答の割合（％）

H29 質問 番号	質 問	H27 鈴鹿市	H28 鈴鹿市	H29 鈴鹿市	H29 全国 (公立)	H29 全国 平均 との差
77	解答を文章で書く問題がありましたが、どのように解答しましたか (※「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」と回答)	77.3	74.7	77.6	77.2	○
89	解答時間は十分でしたか（国語 A） (※「時間が余った」「ちょうどよかった」と回答)	80.7	81.8	83.0	86.6	△
90	解答時間は十分でしたか（国語 B） (※「時間が余った」「ちょうどよかった」と回答)	63.9	69.3	63.0	66.1	△

※全国平均との差 ▲<-5≤△<0≤○<+5≤◎

学校質問紙

表 12 「国語科の指導方法」に関する質問における肯定的回答の割合（％）

H29 質問 番号	質 問	H27 鈴鹿市	H28 鈴鹿市	H29 鈴鹿市	H29 全国 (公立)	H29 全国 平均 との差
53	前年度に、国語の授業において、コンピュータ等の情報通信技術（パソコン（タブレット端末を含む）、電子黒板、実物投影機、プロジェクター、インターネットなど）を活用した授業を行いましたか（※「月1回以上」と回答）	16.6	16.7	26.7	44.9	▲
64	前年度までに、補充的な学習の指導を行いましたか	66.6	66.7	80.0	79.1	○
65	前年度までに、発展的な学習の指導を行いましたか	33.3	46.7	56.6	52.7	○
66	前年度までに、目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業を行いましたか	93.3	86.7	100	92.2	◎
67	前年度までに、書く習慣を付ける授業を行いましたか	93.3	93.3	96.6	93.4	○
68	前年度までに、様々な文章を読む習慣を付ける授業を行いましたか	86.6	86.6	80.0	88.9	▲
69	前年度までに、漢字・語句など基礎的・基本的な事項を定着させる授業を行いましたか	100	100	100	98.1	○

※全国平均との差 ▲<-5≤△<0≤○<+5≤◎

小学校 算数

< A問題 > (表 13) (図 23) ※全国平均との比較について

- 全領域で差は縮まっておらず、特に「数量関係」については、H28年度からさらに1.1ポイント広がった。
- 全ての問題形式についても、H28年度に比べて差が広がった。
- 全体としては、国との差が縮まりつつある。

表 13 小学校算数A 分類・区分別集計結果

小学校算数A		平成26年度			平成27年度			平成28年度			平成29年度		
		鈴鹿市	全国	差									
	全体	75.7	78.1	-2.4	73.0	75.2	-2.2	75.9	77.6	-1.7	77.0	78.6	-1.6
学習指導要領 の領域等	数と計算	80.4	81.8	-1.4	78.3	80.1	-1.8	78.7	80.5	-1.8	78.6	80.6	-2.0
	量と測定	71.8	74.8	-3.0	69.1	71.3	-2.2	75.0	77.0	-2.0	66.7	68.8	-2.1
	図形	67.7	71.8	-4.1	60.9	64.5	-3.6	76.8	78.8	-2.0	79.1	81.1	-2.0
	数量関係	78.7	81.3	-2.6	84.3	84.9	-0.6	67.2	68.5	-1.3	77.2	79.6	-2.4
問題形式	選択式	68.0	70.7	-2.7	68.8	70.5	-1.7	74.5	75.8	-1.3	78.0	79.6	-1.6
	短答式	82.5	84.8	-2.3	74.9	77.3	-2.4	76.5	78.5	-2.0	75.4	77.8	-2.4
	記述式												

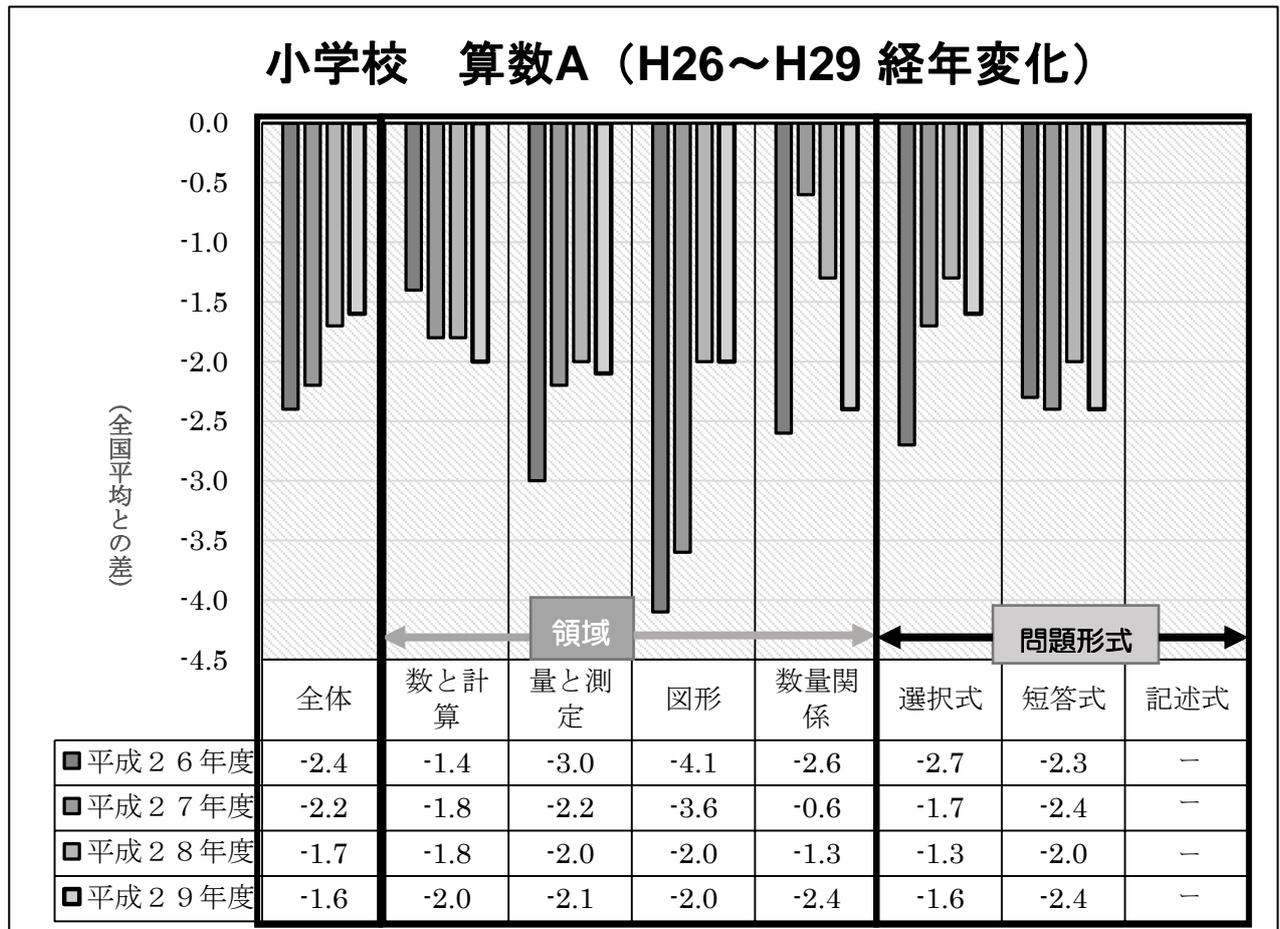


図 23 平成 26 年度から平成 29 年度にかけての領域別、問題形式別正答率推移 (小学校算数 A)

＜B問題＞（表 14）（図 24）※全国平均との比較について

- 全領域において、H28 年度に比べて差が広がっている。特に「量と測定」については、H28 年度に比べて、3.2 ポイント広がった。
- 「選択式」と「記述式」で全国平均との差が広がった。特に「選択式」については、3.3 ポイント下回り、H28 年度に比べて 3.8 ポイント下がった。

表 14 小学校算数B 分類・区分別集計結果

小学校算数B		平成26年度			平成27年度			平成28年度			平成29年度		
		鈴鹿市	全国	差									
	全体	56.2	58.2	-2.0	42.5	45.0	-2.5	46.4	47.2	-0.8	44.0	45.9	-1.9
学習指導要領 の領域等	数と計算	58.7	61.3	-2.6	39.7	42.4	-2.7	43.2	44.4	-1.2	51.5	52.8	-1.3
	量と測定	55.4	56.5	-1.1	39.7	41.7	-2.0	42.9	43.7	-0.8	43.0	47.0	-4.0
	図形	66.0	65.7	0.3	43.4	45.6	-2.2	35.7	36.3	-0.6	10.1	13.2	-3.1
	数量関係	54.3	56.2	-1.9	40.9	43.0	-2.1	42.2	42.9	-0.7	37.4	40.0	-2.6
問題形式	選択式	63.8	64.7	-0.9	68.3	70.6	-2.3	57.2	56.7	0.5	50.8	54.1	-3.3
	短答式	61.3	62.2	-0.9	40.3	42.2	-1.9	65.3	66.4	-1.1	60.6	61.7	-1.1
	記述式	46.1	49.7	-3.6	29.3	32.5	-3.2	24.3	26.2	-1.9	29.4	31.6	-2.2

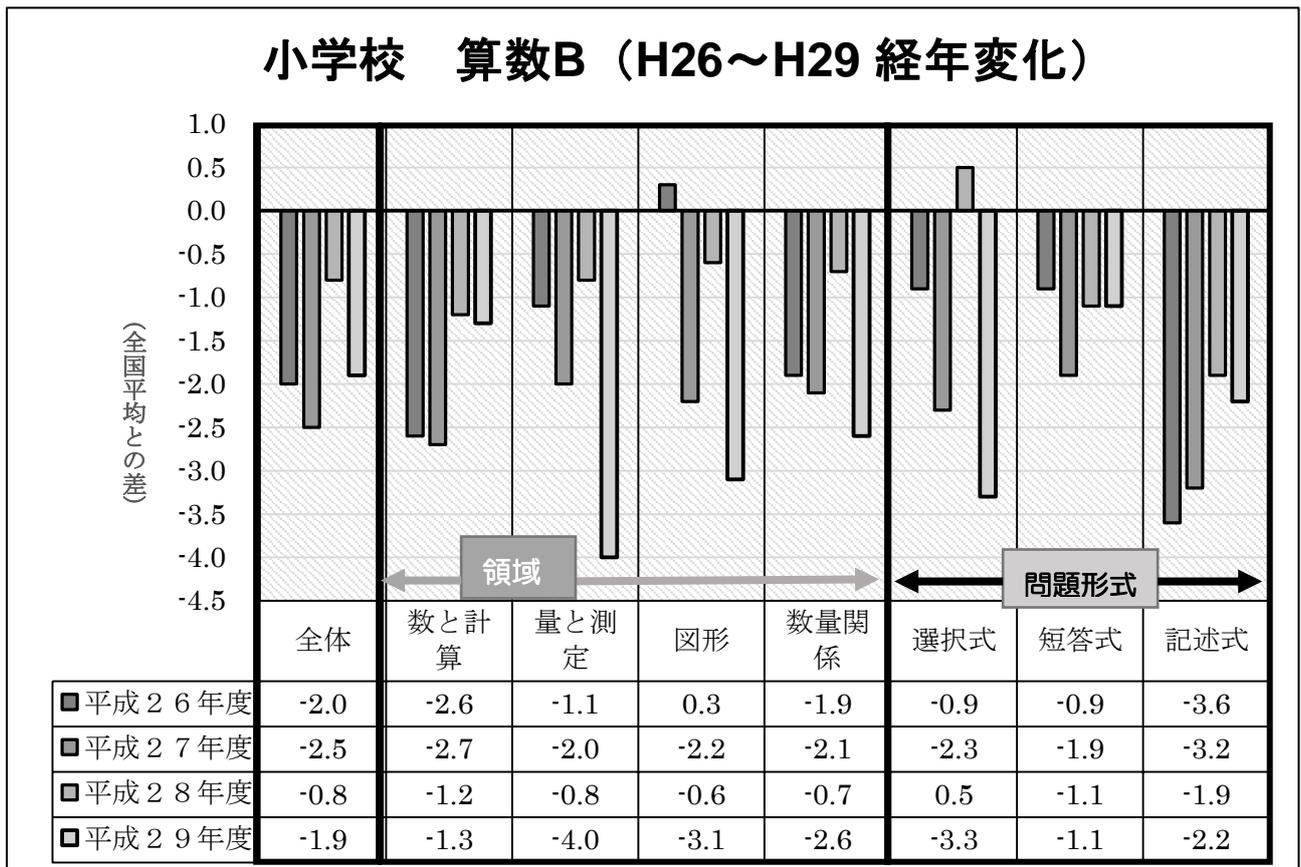


図 24 平成 26 年度から平成 29 年度にかけての領域別，問題形式別正答率推移（小学校算数 B）

小学校算数に関する質問紙調査の結果

※肯定的回答の割合が70%未満か、70%以上であっても全国平均より5ポイント以上下回るものについて課題が大きいとみなす。

質問紙調査結果からみえる課題

<児童質問紙調査>

- 「算数の勉強が好き」と回答した児童の割合（表15）
- 「算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える」と回答した児童の割合（表16）
- 「言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題について、「最後まで解答を書こうと努力した」と回答する児童の割合（表17）
- 「解答時間は十分」と回答する児童の割合（表17）

<学校質問紙調査>

- 「前年度に、算数の授業において、コンピュータ等の情報通信技術を活用した授業を行った」と回答した学校の割合（表18）

※ 質問74, 60, 61, 62については、実態を把握するにとどめる。

児童質問紙

表15 児童の「算数に対する関心」に関する質問における肯定的回答の割合（%）

H29 質問 番号	質 問	H27 鈴鹿市	H28 鈴鹿市	H29 鈴鹿市	H29 全国 (公立)	H29 全国 平均 との差
78	算数の勉強は好きですか	64.8	67.5	66.3	65.9	○
79	算数の勉強は大切だと思いますか	92.9	91.0	91.3	92.0	△
80	算数の授業の内容はよく分かりますか	81.5	80.8	82.5	80.6	○
81	算数の授業で新しい問題に出合ったとき、それを解いてみたいと思いますか	78.2	78.0	76.2	75.7	○
84	算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	90.2	89.1	89.3	89.1	○

表16 児童の「算数の学習に対する意欲・態度」に関する質問における肯定的回答の割合（%）

H29 質問 番号	質 問	H27 鈴鹿市	H28 鈴鹿市	H29 鈴鹿市	H29 全国 (公立)	H29 全国 平均 との差
82	算数の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか	79.7	81.8	81.8	81.1	○
83	算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか	65.5	66.4	69.2	69.1	○

85	算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか	79.0	80.6	80.1	81.4	△
86	算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか	79.5	80.9	82.4	82.6	△
87	算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか	82.3	84.1	86.3	86.0	○

※全国平均との差 ▲<-5≤△<0≤○<+5≤◎

表 17 児童の「調査問題（算数）の解答状況」に関する質問における肯定的回答の割合（%）

H29 質問 番号	質 問	H27 鈴鹿市	H28 鈴鹿市	H29 鈴鹿市	H29 全国 (公立)	H29 全国 平均 との差
88	言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題がありましたが、どのように解答しましたか（※「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」と回答）	73.5	72.6	69.7	69.9	△
91	解答時間は十分でしたか（算数A） （※「時間が余った」「ちょうどよかった」と回答）	82.1	85.7	84.5	87.1	△
92	解答時間は十分でしたか（算数B） （※「時間が余った」「ちょうどよかった」と回答）	59.3	54.5	45.3	52.5	▲

※全国平均との差 ▲<-5≤△<0≤○<+5≤◎

学校質問紙

表 18 「算数科の指導方法」に関する質問における肯定的回答の割合（%）

H29 質問 番号	質 問	H27 鈴鹿市	H28 鈴鹿市	H29 鈴鹿市	H29 全国 (公立)	H29 全国 平均 との差
54	前年度に、算数の授業において、コンピュータ等の情報通信技術（パソコン（タブレット端末を含む）、電子黒板、実物投影機、プロジェクター、インターネットなど）を活用した授業を行いましたか（※「月1回以上」と回答）	30.0	23.3	40.0	55.4	▲
70	前年度までに、補充的な学習の指導を行いましたか	86.7	90.0	93.3	93.3	○
71	前年度までに、発展的な学習の指導を行いましたか	60.0	43.3	73.3	66.9	◎
72	前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか	80.0	56.7	83.4	75.2	◎
73	前年度までに、計算問題などの反復練習をする授業を行いましたか	90.0	100	100	97.5	○
74	前年度までに、教科担任制を実施していましたか	0	6.7	6.7	9.0	△
60	前年度に、習熟の遅いグループに対して少人数による指導を行い、習得できるようにしましたか（※年間の授業のうち、おおよそ1/4以上）	23.4	13.4	30.0	47.1	▲
61	前年度に、習熟の早いグループに対して少人数による指導を行い、発展的な内容を扱いましたか（※年間の授業のうち、おおよそ1/4以上）	16.6	6.6	13.4	38.0	▲
62	前年度に、チームティーチングによる指導を行いましたか（※年間の授業のうち、おおよそ1/4以上）	46.6	40.1	60.1	47.6	◎

中学校 国語

< A問題 > (表 19) (図 25) ※全国平均との比較について

- 「話すこと・聞くこと」「読むこと」について、H28年度に比べてそれぞれ 1.2 ポイント、0.9 ポイント縮まった。
- 「書くこと」について、H28年度に比べて 0.5 ポイント広がった。
- 全ての問題形式について、H28年度に比べて差が縮まった。

表 19 中学校国語 A 分類・区分別集計結果

中学校国語A		平成26年度			平成27年度			平成28年度			平成29年度		
		鈴鹿市	全国	差									
学習指導要領 の領域等	全体	76.9	79.4	-2.5	73.1	75.8	-2.7	72.7	75.6	-2.9	76.0	77.4	-1.4
	話すこと・聞くこと	69.1	72.3	-3.2	77.1	79.7	-2.6	75.7	78.9	-3.2	73.4	75.4	-2.0
	書くこと	80.9	83.4	-2.5	70.4	73.6	-3.2	72.5	73.7	-1.2	84.0	85.7	-1.7
	読むこと	81.9	82.9	-1.0	85.4	86.1	-0.7	75.6	78.6	-3.0	71.7	73.8	-2.1
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	75.9	78.7	-2.8	69.7	72.9	-3.2	70.7	73.9	-3.2	76.0	77.2	-1.2
問題形式	選択式	81.3	83.2	-1.9	73.1	75.5	-2.4	70.7	73.5	-2.8	76.5	78.5	-2.0
	短答式	69.6	73.1	-3.5	73.1	76.7	-3.6	77.4	80.5	-3.1	74.5	75.1	-0.6
	記述式												

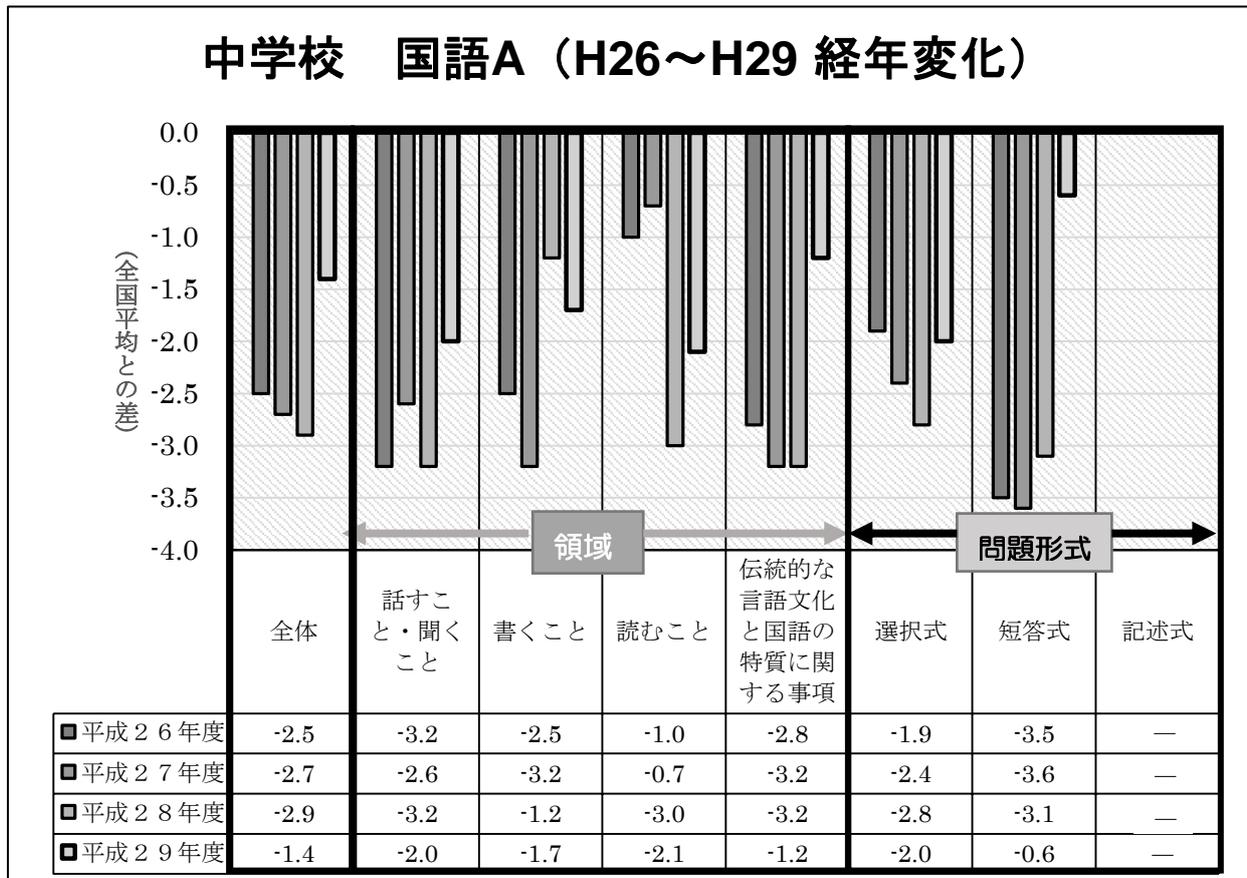


図 25 平成 26 年度から平成 29 年度にかけての領域別，問題形式別正答率推移（中学校国語 A）

＜B問題＞（表 20）（図 26）※全国平均との比較について

- 4 領域中 3 領域で、差が縮まった。特に「書くこと」の領域では、H28 年度に比べて 3.1 ポイント縮まった。
- 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」について、H26 年度に比べて 0.2 ポイント広がった。
- 全ての問題形式で、H28 年度に比べて差を縮めた。特に「記述式」について、H28 年度に比べて 3.4 ポイント縮まった。

表 20 中学校国語 B 分類・区分別集計結果

中学校国語B		平成26年度			平成27年度			平成28年度			平成29年度		
		鈴鹿市	全国	差									
	全体	49.0	51.0	-2.0	62.8	65.8	-3.0	62.9	66.5	-3.6	71.0	72.2	-1.2
学習指導要領 の領域等	話すこと・聞くこと				68.3	72.2	-3.9				71.8	72.4	-0.6
	書くこと	38.0	41.0	-3.0	32.5	36.7	-4.2	53.2	58.3	-5.1	58.8	60.8	-2.0
	読むこと	46.5	49.2	-2.7	60.0	62.6	-2.6	62.9	66.5	-3.6	70.3	72.1	-1.8
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	54.9	56.8	-1.9							39.3	41.4	-2.1
問題形式	選択式	54.5	55.9	-1.4	77.9	79.0	-1.1	68.1	70.6	-2.5	78.1	79.6	-1.5
	短答式							66.0	71.1	-5.1	82.2	84.1	-1.9
	記述式	38.0	41.0	-3.0	32.5	34.8	-2.3	53.2	58.3	-5.1	54.2	55.9	-1.7

中学校 国語B (H26~H29 経年変化)

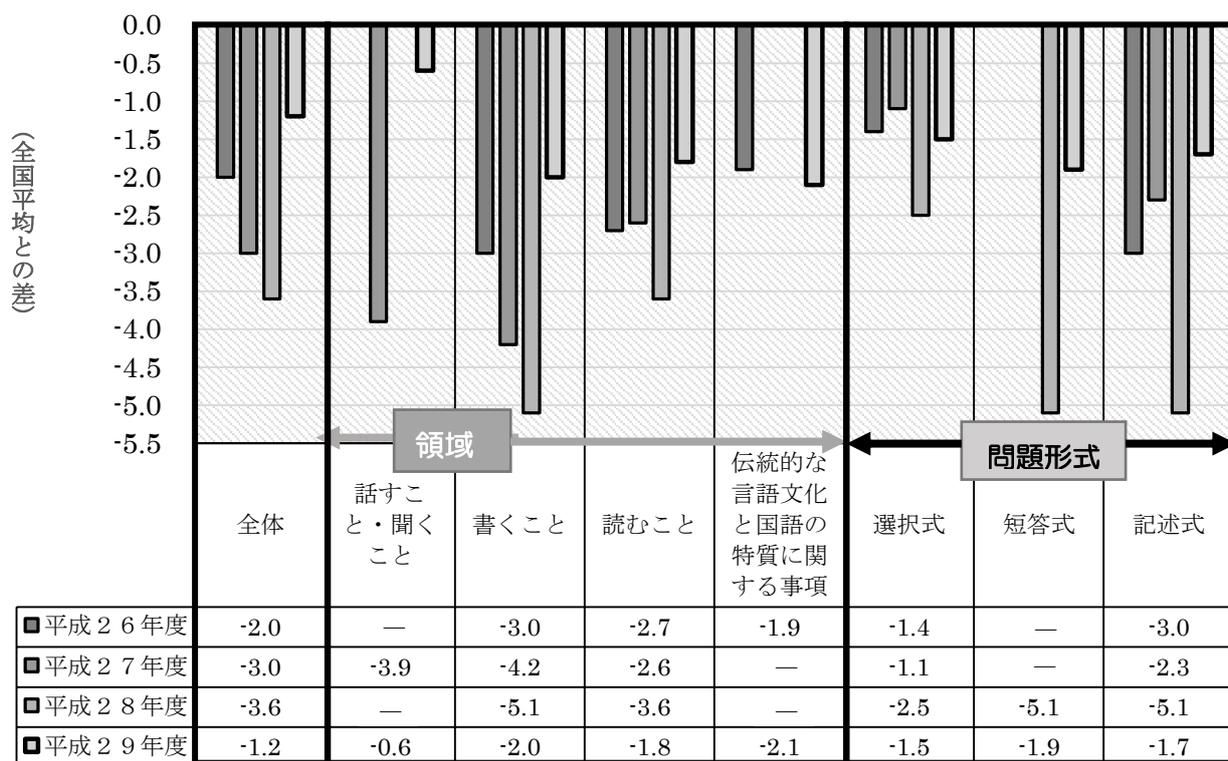


図 26 平成 26 年度から平成 29 年度にかけての領域別、問題形式別正答率推移 (中学校国語 B)

中学校国語に関する質問紙調査の結果

※肯定的回答の割合が70%未満か、70%以上であっても全国平均より5ポイント以上下回るものについて課題が大きいとみなす。

質問紙調査結果からみえる課題

<生徒質問紙調査>

- 「国語の勉強が好き」と回答する生徒の割合（表 21）
- 「読書が好き」と回答する生徒の割合（表 21）
- 国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫すること（表 22）
- 国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりすること（表 22）
- 国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書くこと（表 22）

<学校質問紙調査>

- 「前年度に、国語の授業において、コンピュータ等の情報通信技術を活用した授業を行った」と回答した学校の割合（表 24）

生徒質問紙

表 21 生徒の「国語の学習に対する関心」に関する質問における肯定的回答の割合（％）

H29 質問 番号	質 問	H27 鈴鹿市	H28 鈴鹿市	H29 鈴鹿市	H29 全国 (公立)	H29 全国 平均 との差
71	国語の勉強は好きですか	58.2	66.4	62.3	60.5	○
72	国語の勉強は大切だと思いますか	86.9	89.4	90.5	88.8	○
73	国語の授業の内容はよく分かりますか	73.7	80.0	76.7	74.9	○
74	読書は好きですか	63.8	68.3	69.3	69.9	△
75	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	83.0	84.3	84.7	83.3	○

※全国平均との差 ▲<-5≤△<0≤○<+5≤◎

表 22 生徒の「国語の学習に対する意欲・態度」に関する質問における肯定的回答の割合（％）

H29 質問 番号	質 問	H27 鈴鹿市	H28 鈴鹿市	H29 鈴鹿市	H29 全国 (公立)	H29 全国 平均 との差
76	国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか	56.8	58.5	62.9	62.7	○
77	国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫していますか	49.2	54.8	54.3	55.6	△
78	国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いていますか	61.7	64.0	67.2	65.9	○

※全国平均との差 ▲<-5≤△<0≤○<+5≤◎

表 23 生徒の「調査問題（国語）の解答状況」に関する質問における肯定的回答の割合（％）

H29 質問 番号	質 問	H27 鈴鹿市	H28 鈴鹿市	H29 鈴鹿市	H29 全国 (公立)	H29 全国 平均 との差
79	解答を文章で書く問題がありましたが、それらの問題で最後まで解答を書こうと努力しましたか（※「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」と回答）	74.1	70.9	73.9	72.3	○
91	解答時間は十分でしたか（国語 A） （※「時間が余った」「ちょうどよかった」と回答）	92.1	91.5	94.3	94.0	○
92	解答時間は十分でしたか（国語 B） （※「時間が余った」「ちょうどよかった」と回答）	85.9	84.8	86.5	86.3	○

※全国平均との差 ▲<-5≤△<0≤○<+5≤◎

学校質問紙

表 24 「国語科の指導方法」に関する質問における肯定的回答の割合（％）

H29 質問 番号	質 問	H27 鈴鹿市	H28 鈴鹿市	H29 鈴鹿市	H29 全国 (公立)	H29 全国 平均 との差
53	前年度に、国語の授業において、コンピュータ等の情報通信技術（パソコン（タブレット端末を含む）、電子黒板、実物投影機、プロジェクター、インターネットなど）を活用した授業を行いましたか（※「月1回以上」と回答）	20.0	20.0	20.0	25.3	▲
64	前年度までに、補充的な学習の指導を行いましたか	70.0	70.0	90.0	82.3	◎
65	前年度までに、発展的な学習の指導を行いましたか	60.0	80.0	80.0	67.4	◎
66	前年度までに、目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業を行いましたか	60.0	90.0	90.0	87.5	○
67	前年度までに、書く習慣を付ける授業を行いましたか	90.0	100	100	95.7	○
68	前年度までに、様々な文章を読む習慣を付ける授業を行いましたか	100.0	60.0	90.0	90.6	△
69	前年度までに、漢字・語句など基礎的・基本的な事項を定着させる授業を行いましたか	90.0	100	100	98.4	○

※全国平均との差 ▲<-5≤△<0≤○<+5≤◎

中学校 数学

< A 問題 > (表 25) (図 27) ※全国平均との比較について

- 「図形」「関数」「資料の活用」の3領域で、H28年度に比べて差を縮めている。特に「図形」については、2.0ポイント縮めた。
- 「数と式」の領域では、H28年度に比べて差が0.9ポイント広がった。
- 全ての問題形式について、H28年度に比べて差を縮めている。

表 25 中学校数学 A 分類・区別集計結果

中学校数学A		平成26年度			平成27年度			平成28年度			平成29年度		
		鈴鹿市	全国	差									
	全体	65.6	67.4	-1.8	61.6	64.4	-2.8	59.3	62.2	-2.9	62.0	64.6	-2.6
学習指導要領 の領域等	数と式	76.2	77.4	-1.2	65.2	67.7	-2.5	64.8	65.9	-1.1	68.4	70.4	-2.0
	図形	64.1	66.4	-2.3	60.4	63.4	-3.0	62.9	67.1	-4.2	63.8	66.0	-2.2
	関数	55.7	58.0	-2.3	59.3	61.7	-2.4	49.2	52.0	-2.8	55.4	57.4	-2.0
	資料の活用	57.9	59.1	-1.2	59.4	63.0	-3.6	52.2	56.5	-4.3	53.9	57.6	-3.7
問題形式	選択式	62.6	64.4	-1.8	62.4	64.6	-2.2	55.1	57.8	-2.7	64.6	66.8	-2.2
	短答式	68.5	70.4	-1.9	60.8	64.2	-3.4	61.6	64.6	-3.0	61.1	63.4	-2.3
	記述式												

中学校 数学A (H26~H29 経年変化)

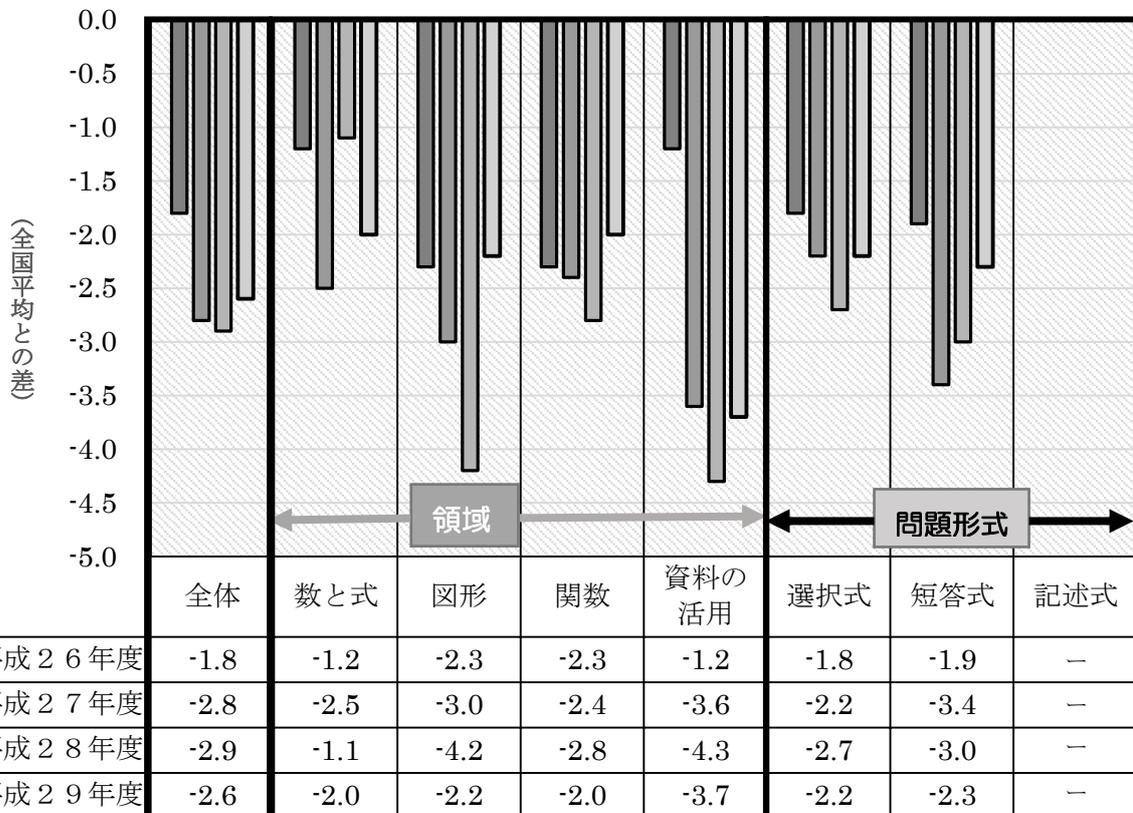


図 27 平成 26 年度から平成 29 年度にかけての領域別、問題形式別正答率推移 (中学校数学 A)

<B問題> (表 26) (図 28) ※全国平均との比較について

- 「資料の活用」について、H28年度に比べて差を 3.9 ポイント縮めた。
- 「関数」は、H28年度は全国平均を 0.1 ポイント上回ったが、H29年度は 2.8 ポイント下回った。
- 「短答式」は、H28年度に比べて差が 0.8 ポイント縮まった。
- 「選択式」では、H28年度に比べて差が 2.1 ポイント広がった。

表 26 中学校数学 B 分類・区分別集計結果

中学校数学B		平成26年度			平成27年度			平成28年度			平成29年度		
		鈴鹿市	全国	差									
	全体	57.7	59.8	-2.1	38.4	41.6	-3.2	41.1	44.1	-3.0	45.0	48.1	-3.1
学習指導要領 の領域等	数と式	56.9	56.9	0.0	58.7	63.2	-4.5	47.1	51.5	-4.4	43.3	46.3	-3.0
	図形	56.3	58.6	-2.3	35.5	39.0	-3.5	29.5	33.3	-3.8	43.7	47.1	-3.4
	関数	61.0	64.4	-3.4	28.4	30.7	-2.3	41.5	41.4	0.1	48.0	50.8	-2.8
	資料の活用	54.0	55.9	-1.9	28.4	31.2	-2.8	33.3	39.3	-6.0	47.0	49.1	-2.1
問題形式	選択式	81.5	83.2	-1.7	46.3	47.9	-1.6	40.8	41.3	-0.5	51.2	53.8	-2.6
	短答式	61.3	63.3	-2.0	43.6	47.4	-3.8	53.2	57.8	-4.6	62.5	66.3	-3.8
	記述式	42.1	44.8	-2.7	30.8	34.8	-4.0	30.8	33.1	-2.3	19.4	21.7	-2.3

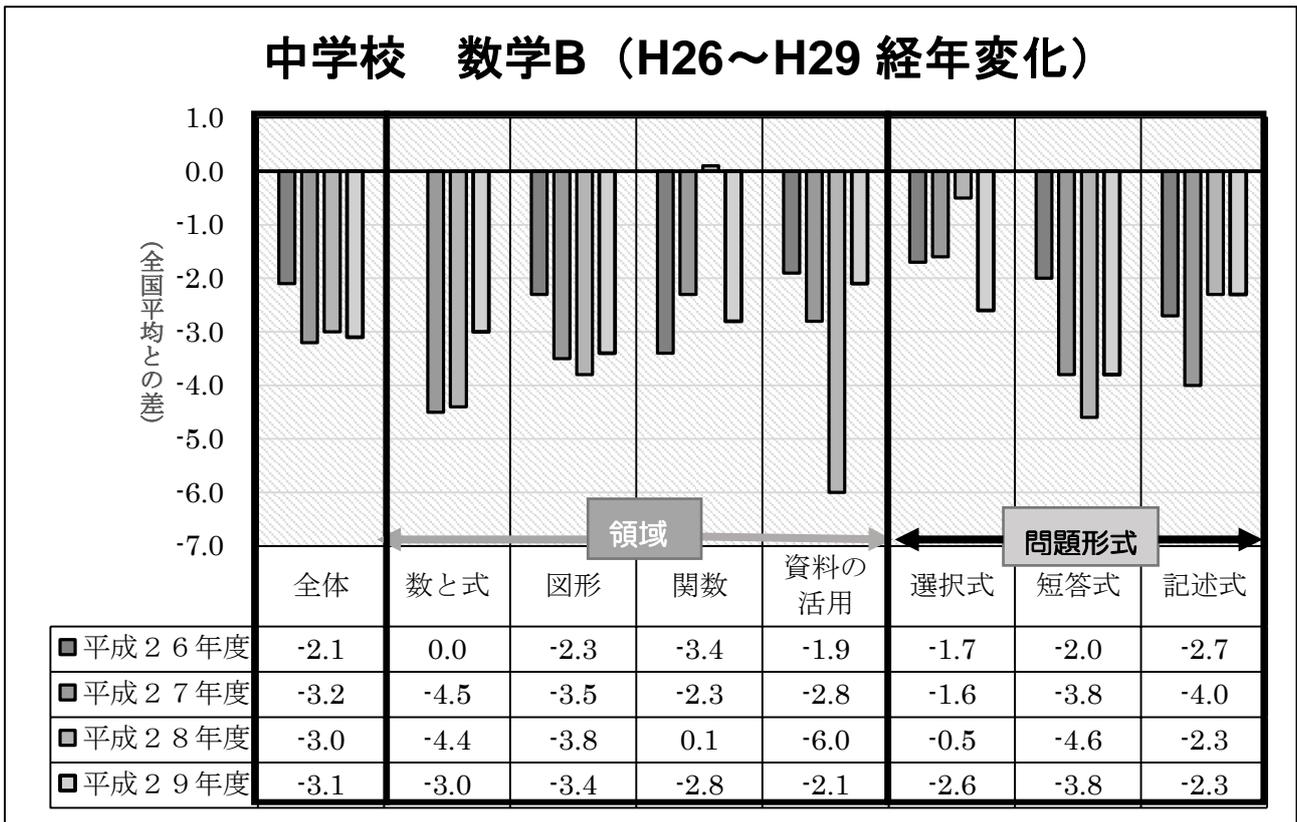


図 28 平成 26 年度から平成 29 年度にかけての領域別、問題形式別正答率推移 (中学校数学 B)

中学校数学に関する質問紙調査の結果

※肯定的回答の割合が70%未満か、70%以上であっても全国平均より5ポイント以上下回るものについて課題が大きいとみなす。

質問紙調査結果からみえる課題

<生徒質問紙調査>

- 「数学の勉強が好き」と回答する生徒の割合（表 27）
- 「数学の授業の内容はよく分かる」と回答する生徒の割合（表 27）
- 数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えること（表 28）
- 「言葉や数、式を使って説明する問題について、最後まで解答を書こうと努力した」と回答する生徒の割合（表 28）

<学校質問紙調査>

- 「前年度に、数学の授業において、コンピュータ等の情報通信技術を活用した授業を行った」と回答した学校の割合（表 30）
 - 「発展的な学習の指導を行った」と回答した学校の割合（表 30）
 - 「実生活における事象との関連を図った授業を行った」と回答した学校の割合（表 30）
 - 「計算問題などの反復練習をする授業を行った」と回答した学校の割合（表 30）
- ※ 質問 60, 61, 62 については、実態を把握するにとどめる。

生徒質問紙

表 27 生徒の「数学の学習に対する関心」に関する質問における肯定的回答の割合（%）

H29 質問 番号	質 問	H27 鈴鹿市	H28 鈴鹿市	H29 鈴鹿市	H29 全国 (公立)	H29 全国 平均 との差
80	数学の勉強は好きですか	56.4	54.5	55.4	55.4	○
81	数学の勉強は大切だと思いますか	82.5	79.9	80.4	81.1	△
82	数学の授業の内容はよく分かりますか	73.8	71.7	69.0	69.4	△
83	数学ができるようになりたいと思いますか	91.4	90.2	91.4	91.2	○
86	数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	73.9	73.1	72.6	72.4	○

※全国平均との差 ▲<-5≤△<0≤○<+5≤◎

表 28 生徒の「数学の学習に対する意欲・態度」に関する質問における肯定的回答の割合（%）

H29 質問 番号	質 問	H27 鈴鹿市	H28 鈴鹿市	H29 鈴鹿市	H29 全国 (公立)	H29 全国 平均 との差
84	数学の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか	70.4	71.4	75.2	73.5	○
85	数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか	40.0	42.0	43.8	45.3	△
87	数学の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか	68.7	69.6	73.3	71.2	○

88	数学の授業で公式やきまりを習うとき，その根拠を理解するようにしていますか	70.6	70.4	71.3	72.1	△
89	数学の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか	83.0	81.9	86.0	81.3	○

※全国平均との差 ▲<-5≤△<0≤○<+5≤◎

表 29 生徒の「調査問題（数学）の解答状況」に関する質問における肯定的回答の割合 (%)

H29 質問 番号	質 問	H27 鈴鹿市	H28 鈴鹿市	H29 鈴鹿市	H29 全国 (公立)	H29 全国 平均 との差
90	言葉や数，式を使って説明する問題がありましたが，それらの問題で最後まで解答を書こうと努力しましたか (※「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」と回答)	49.2	51.9	57.3	55.4	○
93	解答時間は十分でしたか（数学 A） (※「時間が余った」「ちょうどよかった」と回答)	89.9	90.1	90.5	89.5	○
94	解答時間は十分でしたか（数学 B） (※「時間が余った」「ちょうどよかった」と回答)	76.8	69.2	77.7	76.7	○

※全国平均との差 ▲<-5≤△<0≤○<+5≤◎

学校質問紙

表 30 「数学の指導方法」に関する質問における肯定的回答の割合 (%)

H29 質問 番号	質 問	H27 鈴鹿市	H28 鈴鹿市	H29 鈴鹿市	H29 全国 (公立)	H29 全国 平均 との差
54	前年度に，数学の授業において，コンピュータ等の情報通信技術（パソコン（タブレット端末を含む），電子黒板，実物投影機，プロジェクター，インターネットなど）を活用した授業を行いましたか（※「月1回以上」と回答）	10.0	10.0	30.0	38.8	▲
70	前年度までに，補充的な学習の指導を行いましたか	70.0	80.0	90.0	91.9	△
71	前年度までに，発展的な学習の指導を行いましたか	70.0	60.0	60.0	71.2	▲
72	前年度までに，実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか	50.0	70.0	60.0	70.9	▲
73	前年度までに，計算問題などの反復練習をする授業を行いましたか	90.0	80.0	90.0	96.5	▲
60	前年度に，習熟の遅いグループに対して少人数による指導を行い，習得できるようにしましたか（※年間の授業のうち，おおよそ1/4以上）	10.0	10.0	30.0	36.4	○
61	前年度に，習熟の早いグループに対して少人数による指導を行い，発展的な内容を扱いましたか（※年間の授業のうち，おおよそ1/4以上）	10.0	10.0	20.0	30.8	△
62	前年度に，ティームティーチングによる指導を行いましたか（※年間の授業のうち，おおよそ1/4以上）	30.0	50.0	40.0	46.9	▲

※全国平均との差 ▲<-5≤△<0≤○<+5≤◎